MN128-SOHO

IB3

導入／設定ガイド

◎パッキングリスト

□MN128-SOHO IB3 本体・・・・・・・・1個
□ISDN（U点）ケーブル ・・・・・・・・・・1本
□LAN（カテゴリ5）ケーブル ・・・・・1本
□保証書 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1冊
□導入／設定ガイド（本書）・・・・・・・1冊
□おまかせ設定ガイド ・・・・・・・・・・・・1枚

■商標についてのお知らせ

◎Microsoft®、Windows® は、米国Microsoft® Corporationの登録商標です。
◎Macintosh®、Mac®、MacOS® は、アップルコンピュータ社の登録商標です。
◎Ethernet® は、富士ゼロックス社の登録商標です。
◎Super G™は、Atheros Communications, Inc.の商標です。
◎Adobe、Acrobat、Readerは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における登録商標または商標です。
◎MN128SOHO™は、株式会社エヌ・ティ・ティ エムイーの商標です。
◎AutoBACP™、AutoDNS™、AutoMP™、AutoNAT™、AutoPAD™、AutoPPP™、マルチアンサー™は、株式会社ビー・ユー・ジーの商標です。
◎その他の商品名、会社名は、各社の商標または登録商標です。

■ご注意

【電波に関して】

●この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波障害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。
取扱説明書にしたがって正しく取り扱いをしてください。
●本製品は電波法に基づき省電力データ通信システムの無線局の無線設備として、技術適合証明を受けています。したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。
●本製品は技術基準適合証明を受けていますので、以下の事項を行うと法律で罰せられることがあります。
・本製品を分解／改造すること
・本製品の裏面に貼ってある証明ラベルをはがすこと

【その他】

●本製品の故障、誤動作、不具合あるいは停電などの外的要因によって、通信などの機会を逃したために生じた損害などの純粋経済損失につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
●通信不良によって生じた損害につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。また、通信内容の漏れにつきましても、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

●このマニュアルおよびソフトウェア、ハードウェア、外観の内容について、将来予告なしに変更することがあります。
●このマニュアルで使用している「NTT」という用語は、「NTT東日本」「NTT西日本」または「NTTコミュニケーションズ」を指します。

安全にお使いいただくためにお読みください

⚠ 注意

- 煙が出ている、変なにおいがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因になります。本製品の電源ケーブルをコンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認してからMNテクニカルセンタ〈P.162〉へご連絡ください。お客様による修理は大変危険ですから、絶対におやめください。
- 本製品を分解したり、改造したりしないでください。発熱・火災・感電・故障の原因になります。
- 誤って本製品を落下させたり、強い衝撃を与えた場合、内部の部品が外れる可能性があります。本製品を振ってカタカタという音がしたとき、あるいは本製品の動作が不安定なときは、本製品の電源ケーブルをコンセントから抜き、MNテクニカルセンタへご連絡ください。そのまま使用すると、火災・故障の原因になります。
- 本製品の内部に水などが入った場合は、まず本製品の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから抜いて、MNテクニカルセンタへご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因になります。
- 本製品の換気口をふさがないでください。発熱などにより、火災・感電・故障の原因になります。
- 本製品のそばに花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品の入った容器、または小さな金属類を置かないでください。こぼれたり本製品の内部に入った場合、火災・感電の原因になります。
- 電源ケーブルを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、きつく束ねたりしないでください。また重いものを載せたり、加熱したりすると電源ケーブルが破損し、火災・感電・故障の原因になります。電源ケーブルが傷んだら、MNテクニカルセンタへご連絡ください。
- 本製品を設置する場合は、必ずアース線を接続してください。アース線を接続しないと、火災・感電の原因になります。また、アース線は、ガス管や水道管に接続しないでください。火災・感電の原因になります。
- ぬれた手で電源ケーブルを抜き差ししないでください。感電・故障の原因になります。
- 本製品が薬品や有害ガスに触れないようにしてください。腐食する恐れがあります。また、本製品に有害な物質が付着することになり、人体に害をおよぼす恐れがあります。
- AC100V の家庭用電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電・故障の原因になります。

◎設置場所

- 屋外での使用は、故障の原因になります。屋内でご使用ください。また、直射日光のあたるところや、湿度の高いところに置かないでください。内部の温度が上がり、火災や故障の原因となることがあります。
- 冷暖房機器の近くや、通風口からの風があたるところに置かないでください。火災や故障の原因となることがあります。
- 極端な高温または低温は、故障の原因になります。通常の室温（10 ～50 ℃）でご使用ください。
- 結露するような場所で使用しないでください。温度差の激しい環境を急に移動した場合、本製品は結露する恐れがありますのでご注意ください。故障の原因になります。結露した場合、本製品を乾燥させるか、長い時間同じ環境に置いた後、ご利用ください。
- ほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電・故障の原因になります。
- 調理台のそばなど油飛びや湯気の当たるような場所に置かないでください。火災・感電・故障の原因になります。
- ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。また、本製品の上に重いものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。
- 動作中は内部の温度が上がり、本製品の外側も熱くなるため、他の装置等の上に本製品を重ねて設置しないでください。また、ビニール製のものなどを本製品のそばに置かないでください。変色・変形の原因になります。
- ガス腐食等を伴う環境（塩・酸・アルカリ等）には置かないでください。故障の原因になります。
- 強い磁場を伴う環境には置かないでください。故障の原因になります。
- 各ケーブルは所定のコネクタに接続してください。接続を誤ると、故障の原因になります。
- 本製品やケーブルが人体などと接触するような場所に置かないでください。ケーブルの切断の原因や、落下による本製品の故障の原因になります。
- 高圧線や通信用アンテナのそばでは、正しく通信できないことがあります。

⚠ 注意

◎お使いのとき

- 本製品の小さな穴を含むすべての穴に、異物を挿入しないでください。感電・故障の原因になります。
- 電源ケーブルを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。電源ケーブルを引っ張るとケーブルが傷つき、火災・感電や断線の原因になります。
- ケーブルを接続するときは、本製品および接続機器の電源を切ってから行ってください。火災・感電・故障・事故の原因になります。
- 近くに雷が発生したときは、電源ケーブルのコンセントを抜き、すべてのケーブルを外して、ご使用をお控えください。ケーブルの接続や切断、または製品の導入や保守の作業も行わないでください。雷によって、火災・感電の原因となることがあります。
- 本製品の外装が汚れたときは、水で薄めた中性洗剤に軟らかい布を浸し、よくしぼってから拭き取り、さらに乾いた布で拭いてください。
- 本製品に乗らないでください。特に小さなお子様のいる家庭ではご注意ください。本製品が壊れて、けがの原因となることがあります。
- 本製品の電源をOFFにした後、再度電源をON にする場合には、10秒以上待ってください。瞬時に電源をON にすると、正常に本製品がリセットされない場合があります。
- 日本国以外で使用しないでください。本製品は、日本国内での使用を目的に設計・製造されています。したがって、日本国外で使用された場合、本製品およびその他の機器を壊す恐れがあります。また、当該国の法令に抵触する場合があるので、使用できません。

STOP お願い

◎お使いのとき

- 動作中に接続ケーブルなどがはずれたり、接続が不安定になると、誤動作の原因になります。コネクタをしっかり接続し、動作中は、コネクタの接続部に触れないでください。
- 本製品のそばにコードレス電話機やテレビなどの電子機器類を設置しないでください。電子機器類に雑音やノイズが発生したり、正常に動作しないことがあります。

⚠ 注意

■無線LAN製品ご使用時の、セキュリティに関するご注意（お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です）

　無線LANでは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコン等と無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。

　その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁等）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

●通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、IDやパスワード又はクレジットカード番号等の個人情報メールの内容等の通信内容を盗み見られる可能性があります。

●不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）、特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）、傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）、コンピュータウィルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）、などの行為をされてしまう可能性があります。

　本来、無線LANカードや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線LAN製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

　従って、お客様がセキュリティ問題発生の可能性を少なくするためには、無線LANカードをご使用になる前に、必ず無線LAN機器のセキュリティに関する全ての設定をマニュアルにしたがって行ってください。

　なお、無線LANの仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解の上、ご使用下さい。セキュリティの設定などについて、お客様ご自分で対処できない場合にはMNテクニカルセンタ〈P.162〉までお問い合わせ下さい。

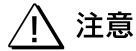
　当社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお奨めします。

■無線LANの電波に関するご注意

- 心臓ペースメーカーを使用している人の近くで本製品を使用しないでください。心臓ペースメーカーに電磁妨害を及ぼし、危険です。
- 医療機器の近くで本製品を使用しないでください。医療機器に電磁妨害を及ぼし、危険です。
- 電子レンジの近くで本製品を使用しないでください。電子レンジによって本製品の無線通信への電磁妨害が発生します。

通信料金についてのご注意

特にISDN回線、FOMA/PHS/モデムの対応PCカードでご利用の方は、下記の点にご注意ください。

注意

◎自動接続時の予想外の通信料金について

本製品には、LAN上のパソコンが自動的に回線を接続して相手先にアクセスできる機能があります（自動接続）。自動接続の設定をしていると、ネットワークの設定内容、運用やパソコンにインストールされているソフトウェアの設定などによって、回線が長時間接続されたり、意図しない自動接続が行われ、予想外の通信料金（電話料金やプロバイダへの接続料金）がかかることがあります。利用時間に応じて課金される契約の場合は、ご注意ください。

◎通信料金による自動接続制限が正しく働かない場合

- 本製品には、一定の通信料金を超えたら自動接続しないようにできる機能があります（自動接続制限）。
  ただし、次の場合は、ISDN回線網から料金情報が通知されないため、料金による自動接続制限が正しく働きません。ご注意ください。
  - PHS 電話機に発信した場合
  - 電話をかける際、先頭に「0033（NTTコミュニケーションズ)」「001（KDD株式会社)」「0088（日本テレコム株式会社)」などの番号を付けた場合
  - マイライン登録をしている場合
  - PHS電話機を利用した機器にPIAFSで発信した場合
  - PHS電話機を利用した機器からのアクセスを受信した際に、本製品からコールバックした場合
- FOMA/PHS/モデムの対応PCカードを使って通信する場合は、通信料金による自動接続制限は一切働きません。ご注意ください。

◎プロバイダを解約した場合のご注意

プロバイダ契約を解除したときは、そのプロバイダに接続するための設定を、本製品およびパソコンからすべて削除してください。削除しないまま本製品をお使いになると、意図しない電話料金や接続料金を請求されることがあります。上記のような場合に生じた経済損失につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

本製品のマニュアルの使い方

本製品のマニュアルについて

本製品に付属のマニュアルは、2種類あります。

◎おまかせ設定ガイド（1枚）

本製品の設置からインターネット接続、および ISDNの場合の基本的な電話の設定について、かんたんに図解してあります。

◎導入／設定ガイド（本書）

本製品の設置、インターネット接続、電話機の使い方を解説しています。

また、「MN128-SOHO ホームページ」〈P.162〉から下記のマニュアル（PDFファイル）をダウンロードすることができます。必要に応じてお読みください。

◎活用ガイド 〜 初級編、中・上級編（PDFファイル）

本書に記載していない、すべての機能を解説しています。

◎活用ガイド 〜 RS-232C シリアルポート編（PDFファイル）

RS-232Cシリアルポートに接続したパソコンの使い方について解説しています。

◎リファレンス・ハンドブック（PDFファイル）

設定ページの全項目、および、ATコマンドや電話機からの設定コードについて解説しています。

PDFファイルの使い方

活用ガイド、リファレンス・ハンドブックは、PDF形式のファイルです。お読みになるときは、Adobe Acrobat Reader 4.0J以上が必要です。お使いのパソコンにインストールされていない場合は、下記のホームページから、[Get Adobe Reader] ボタンをクリックすると、ダウンロードすることができます。インストールしてお使いください。

http://www.adobe.co.jp/

使用しているマークについて

このマニュアルで、使用している記号の意味は次のとおりです。

⚠ 警告　この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性がある内容を示しています。

⚠ 注意　この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容を示しています。

STOP お願い　この表示を無視して誤った取り扱いをすると、この製品本来の性能を発揮できなかったり、機能停止を招く内容を示しています。

ISDN　この表示がある解説は、ISDN回線でお使いの方のみお読みください。

このマニュアルの表記について

このマニュアルでは、次の用語を使用しています。

本製品：「MN128-SOHO IB3」を指します。

ブロードバンド：ADSL、CATV、FTTH（光ファイバー）を利用した通信を指します。

ISDN：NTTのISDN回線サービスである「INSネット64」を指します。

専用線：NTTの「ハイ・スーパーディジタル回線」、「ディジタルアクセス64」、「ディジタルアクセス128」を指します。

LAN上のパソコン：「本製品のLANポートに接続しているパソコン」および「本製品のLANポートにつないだハブに接続しているパソコン」のことを指します。

Windows XP：Microsoft Windows XP Home Edition（日本語版）およびMicrosoft Windows XP Professional（日本語版）を指します。

Windows 2000：Microsoft Windows 2000 Server（日本語版）およびMicrosoft Windows 2000 Professional（日本語版）を指します。

Windows 98 SE：Microsoft Windows 98 SE（日本語版）を指します。

Windows Me：Microsoft Windows Millennium Edition（日本語版）を指します。

もくじ

9 電話機やFAXを使いましょう ISDN

10 付録

そのほかのマニュアル（PDF）のもくじ

以下のマニュアルは、インターネットに接続して、MN128-SOHOホームページ〈P.162〉からダウンロードしてください。

活用ガイド〜RS-232Cシリアルポート編 ISDN

リファレンス・ハンドブック

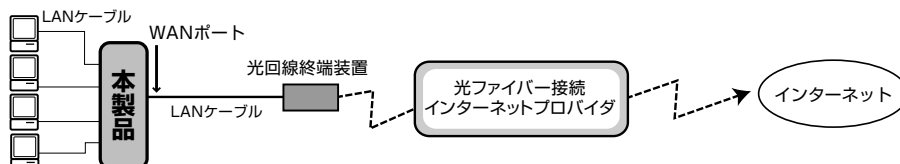
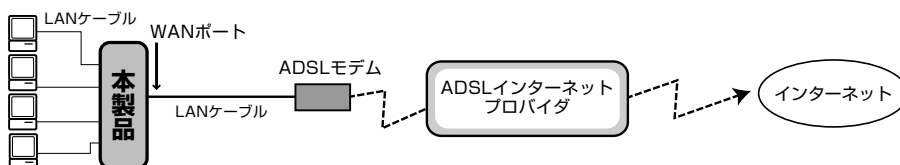
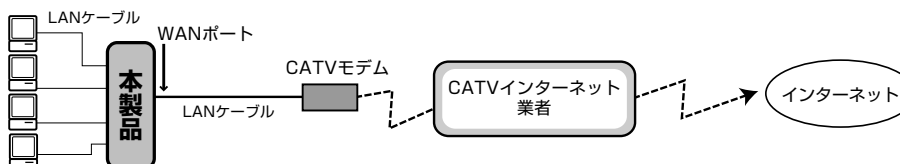
STEP 1 はじめに

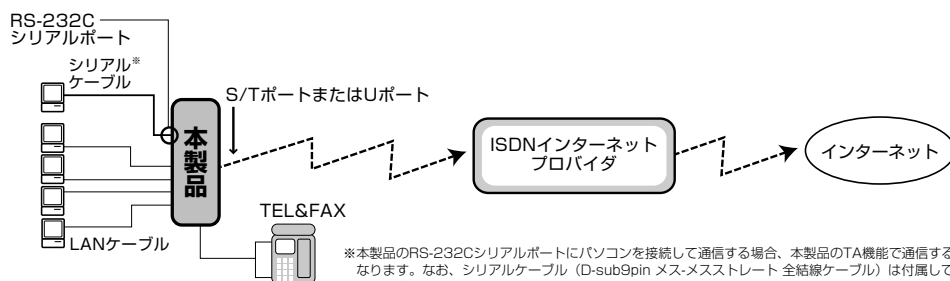
本製品をお使いになる前にお読みください。

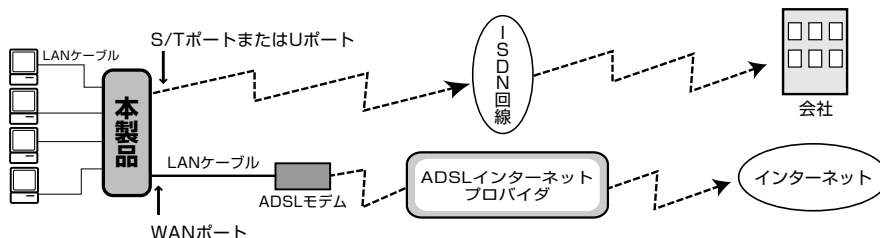
製品概要

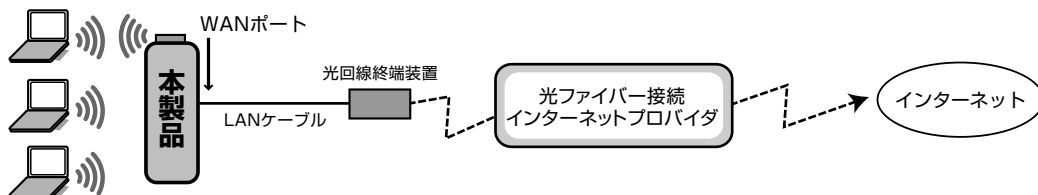
本製品は、ブロードバンド通信とISDN通信の両方に対応したルータです。高速なブロードバンド通信はもちろん、ISDN回線を使用した、インターネット接続・電話機（FAX）による通話、Dチャネルパケット通信など、多彩な通信を行うことができます。また、本製品のPCカードスロットに、対応無線カードを装着することで、無線LANが構築できます。

ブロードバンドでインターネット接続するときの形態例

◎Bフレッツなどの光ファイバーでインターネット接続するとき

◎フレッツ・ADSLなどのADSLでインターネットに接続するとき

◎CATVインターネットに接続するとき

ISDN回線でインターネット接続するときの形態例

※本製品のRS-232Cシリアルポートにパソコンを接続して通信する場合、本製品のTA機能で通信することになります。なお、シリアルケーブル（D-sub9pin メス-メスストレート 全結線ケーブル）は付属していません。お買い求めください。

ブロードバンドとISDNを併用することもできます

◎ ADSL プロバイダに接続してインターネット接続し、同時にISDN回線を利用して会社に接続する例

無線LANを利用することもできます

◎無線LANを利用してBフレッツなどの光ファイバーでインターネット接続する例

本製品の機能について

本製品の機能を、本書では次のように記載します。

ルータ機能	LANポート（LAN1 〜 4）に接続したパソコンから、インターネットに接続する機能を指します。ブロードバンドかISDN回線かは問いません。
アナログ機能	ISDN回線を使用して、本製品のTELポートに接続した電話機やFAXなどのアナログ機器を使って通話する機能を指します。
TA機能	本製品のRS-232Cシリアルポートに接続したパソコンから、ISDN回線にTAとして接続する機能を指します。

対応OS一覧

本製品は、下記OSに対応しています。

Microsoft Windows XP
Microsoft Windows 2000
Microsoft Windows 98 SE
Microsoft Windows Me
Apple Mac OS 9 ※1
Apple Mac OS X ※2

※1 Mac OS 9.2.1で動作確認をしております。なお、TA機能には対応していません。
※2 Mac OS 10.2.5で動作確認をしております。なお、TA機能には対応していません。

こんなことができます ① インターネットに接続するとき

高速スループット

ADSL、CATVインターネット、FTTHなど高速インターネットを快適に利用できます。

PPPoEクライアント/DHCPクライアント

PPPoEクライアント機能を搭載。PPPoEを採用しているプロバイダに接続してインターネットを利用できます。また、DHCPクライアント機能も搭載しているので、DHCP接続のプロバイダにも接続できます。

※ ご契約の回線に応じて、回線に対応した光回線終端装置、ADSL モデム、CATV モデム等が必要です。

PPPoE マルチセッション

異なる複数のPPPoEセッションを最大４箇所まで同時に接続することができます。これによりプロバイダとフレッツ・スクウェア等、複数のプロバイダへの同時接続が可能となります。マルチセッション用の設定サンプルもあらかじめ用意されているので簡単です。

※ご契約の回線のPPPセッション数上限値が４セッションより少ない場合、回線の上限値が最大同時接続数となります。

PPPoEセッションキープアライブ

PPPoE接続が異常切断した場合でも、自動的に回線の接続を回復するセッションキープアライブ機能を搭載しています。

Unnumbered接続対応

複数のグローバルIPアドレスを取得してLAN型で接続する形態に対応しています。また、ネットワーク側にIPアドレスを付与しない、Unnumbered（アンナンバード）方式の接続形態にも対応しています。

VPN / VPN パススルー

VPN(Virtual Private Network)に対応しています。本製品はプロトコルにPPTP(Point-to-Point Tunneling Protocol)を採用しVPNゲートウェイとして動作します。VPNサーバの機能にも対応していますので、WindowsなどPPTPクライアント機能をもった端末から接続することが可能です。
またPPTPパススルー、L2TPパススルー、IPSecパススルーの３種類のVPNパススルーに対応。企業内サーバ等へのセキュアなリモートアクセスが実現できます。

DMZ ホスト

インターネット側からのアクセスをLAN内の特定の端末に転送できるDMZ(DeMilitarized Zone)ホスト機能を搭載しています。NAT(Network Address Translation)またはNAPT(Network Address Port Translation)で変換されなかった通信をすべてDMZホストに転送することができます。使用ポートが特定できないネットワークゲームを使用する場合などに便利です。

※ すべてのネットワークゲームに対応できるわけではありません。

UPnP

UPnP(Universal Plug and Play)に対応。Windows Messenger/MSN Messengerの音声チャットやファイル送信などが利用できます。

※ LAN内の端末がUPnPに対応している必要があります。

VoIPアダプタ対応

本製品にVoIPアダプタを接続すると、今お使いのアナログ電話機でIP電話を利用することができます。

ステートフル・パケット・インスペクション

受信したIPパケットの内容を読み取り、通過させるか破棄するかを自動的に判別する、ステートフル・パケット・インスペクションに対応。より強固なセキュリティが可能です。

DoS攻撃防御

DoS攻撃防御機能を利用すると、本製品への不正なアクセスを検知し、LAN側ネットワークを防御します。

無線LAN機能

本製品対応の無線LANカード（オプション）を装着すると、無線LANを構築できます。IEEE 802.11b、802.11gに対応。
通信相手を特定するための識別番号SSIDに対応しているため、SSIDが一致した相手とのみ通信が可能です。また、本製品から発信するSSID情報を隠すこともできるので、不正アクセスの防止が可能です。WEP(Wired Equivalent Privacy)、WPA-PSKをサポートした無線LANカードにも対応しています。

Super G対応

アセロス・コミュニケーションズ社が開発した、無線スループットの高速化技術「Super G」に対応しているため、無線LANを快適に利用できます。

MACアドレスでの無線端末制限

無線で通信する際、登録したMACアドレスを持つ機器以外からの接続を禁止することができます。

リモートアクセス

ISDN回線接続時に、ISDN、PIAFSなどのリモートアクセスを受けられます。また、FOMA/PHS/モデムカードを使用することによって、リモートアクセスが可能になります。

FOMA/PHS/アナログルータ

FOMA/PHS/モデムのPCカードを使用することにより、FOMA/PHS/モデムでダイヤルアップするルータとして使用できます。

こんなことができます ② 電話機やFAXを使うとき

時間差優先着信

片方のポートに先に着信し、一定時間応答しない場合、別のポートにも着信する機能です。
別のポートに着信するまでの時間を秒単位で設定することができます。

発信者番号通知

本製品に発信者番号を登録し通知することができます。複数のダイヤルイン契約をしている場合、TELポートごとにどの番号を通知するか選択することができます。また、通知の方法も「通知」「非通知」「契約による」から選択することが可能です。

音量調節

TELポートごとに通話の音量を調整することができます。受話音量、送話音量、それぞれについて設定することができるので、こちらの声はよく聞こえているようだが聞き取りづらい、とか、ファクシミリの送信の音が大きくて割れるなどの場合に、細かな設定が可能です。

通信中着信通知（リソースBOD）

ルータ機能を使用して同じ相手先に2Bチャネルでデータ通信中、アナログの着信があった場合、1BチャネルをTELポートに割り当てデータ通信は1Bチャネルで通信し、TELポートの通話が終了すると2Bチャネルのデータ通信に戻る機能です。

内線通話／転送

TELポート1と2で内線通話が可能です。
また、片方のTELポートで通話している外線電話をもう片方のTELポートに内線転送することができます。

i・ナンバー対応

本製品はi・ナンバーに対応しています。i・ナンバーで契約した3つの電話番号で本製品のTELポートを使い分けることができます。

Lモード対応

Lモードの「メッセージ到着お知らせ機能」に対応しています。本製品のTELポートにLモード対応の電話機を接続すると、Lメールが届いたときに電話機のディスプレイにメッセージがあることが表示されます。
※TELポートにLモードに対応した機器を接続する必要があります。

INSマジックボックス

INSマジックボックスのキャッチホン機能に対応しています。通話中に他からかかってきた電話に出ることができます。また、INSマジックボックス（話中時録音、不在時録音、不在時転送）の各種設定を本製品のTELポートに接続した電話機から設定できます。

ナンバー・ディスプレイ/キャッチホン・ディスプレイ/ネーム・ディスプレイ

INSナンバー･ディスプレイに対応しています。かかってきた相手の電話番号が、電話に出る前にディスプレイに表示されます。
また、キャッチホン・ディスプレイでは、通話中に他からかかってきた電話の電話番号が、ディスプレイに表示されます。
ネーム・ディスプレイでは、かかってきた相手先のネーム･ディスプレイ情報が接続した電話機に表示されます。
※TELポートにナンバー・ディスプレイ/キャッチホン・ディスプレイ/ネーム・ディスプレイに対応した機器を接続する必要があります。

INSボイスワープ・セレクト

INSボイスワープ、INSボイスワープ・セレクトの各種設定を本製品のTELポートに接続した電話機から設定することができます。

INSの多様なサービスに対応

INSなりわけサービス、INSダイヤルインサービス、INS迷惑電話おことわりサービス、フレックスホン（多重機能）に対応しています。フレックスホンサービスには、INSキャッチホン、通信中転送機能、三者通話機能、着信転送機能があります。INSキャッチホン、着信転送機能は、契約した番号ごとに設定することが可能です。

グローバル着信

通常、ISDN機器は設定された回線番号およびサブアドレスと、着番号および着サブアドレスが一致した場合のみ着信します。本製品では、着番号が通知されない場合、着信するかどうかを選択することができます。

擬似着信転送

NTTと着信転送の契約をしていなくても、かかってきた電話を、あらかじめ登録しておいた転送先へ自動的に転送できます。

マルチアンサー（擬似キャッチホン）

NTTとINSキャッチホンの契約をしていなくても、通話中に別の相手から電話がかかってきた場合にその電話に応答することができます。

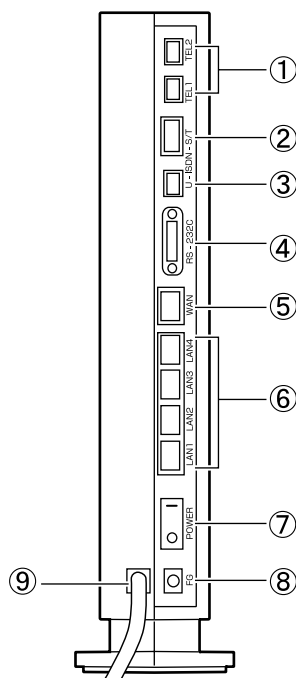
停電時バックアップ

本製品に単3乾電池6本をセットしておくと、停電時でもTELポートに接続した機器を使用することができます。
※使用できるTELポートはTELポート1のみです。

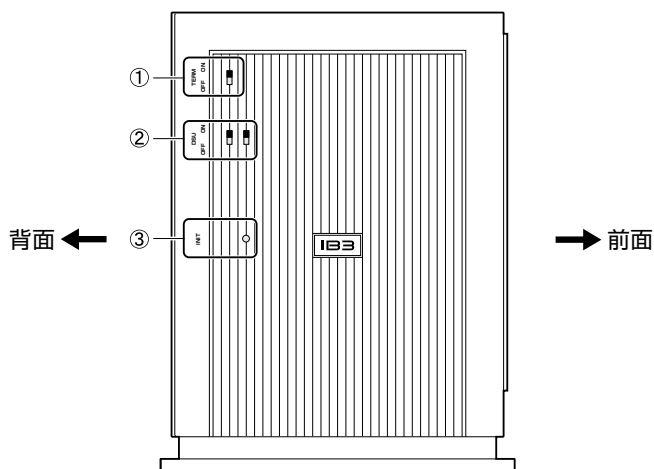
各部の名称とはたらき

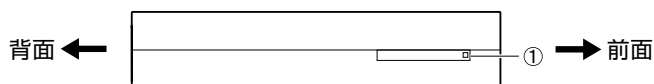
本体前面

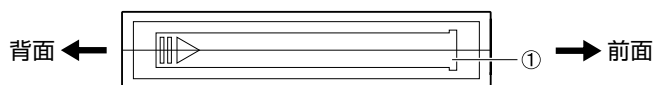
名称	色	点灯時	点滅時
① POWER	緑	電源が投入されています。	停電により電池稼働しています。 ※ 停電から復旧時には長めの間隔で点滅します。
② MAIL	緑		メールが着信しています。（点灯時間が長めの点滅） ※ メール着信通知でエラーが発生しているときは等間隔で点滅します。
③ DATA/ ➡☎➡	赤	データの受信中です。	着信転送が設定されています。
④ B1、B2	赤	回線が接続されています。	発信、または着信中です。 ※ 電源をONにしたとき、B1/B2が同時に点滅する場合は、ISDNケーブルが正常に接続されていない恐れがあります。☞「そのほかのトラブル」〈P.151〉
⑤ TEL1、2	赤	TELポートに接続した機器が使用中です。	TELポートに接続した機器に着信呼び出し中です。
⑥ WAN	赤	WANポートが使用可能な状態です。	WANポートでデータ転送中です。 （10Mbps:遅め点滅、100Mbps:早め点滅）
⑦ PPPoE	緑	PPPoE接続が行われています。 ※ PPPoE（ランプ点灯）の設定がされているPPPoEセッションがどれか1つでも確立されていたら、点灯します。	
⑧ LAN1～4	緑	LAN1～4ポートが使用可能な状態です。	LAN1～4ポートでデータ転送中です。 （10Mbps:遅め点滅、100Mbps:早め点滅）

本体背面

名称	説明
① TEL1、2 ポート	アナログ通信機器を接続します。
② ISDN S/T ポート	ISDN S/T 点ケーブル（別売）で、DSU を接続します。本製品の DSU を使用する場合は、ほかの ISDN 機器を接続して使用することができます。
③ ISDN U ポート	付属の ISDN U 点ケーブルで、ISDN 回線のモジュラージャックに接続します。
④ RS-232C ポート	市販のシリアルケーブル（D-sub9pin メス-メスストレート 全結線ケーブルを別途お買い求めください）で、パソコンの RS-232C ポートと接続します。本製品の TA 機能を使用できます。
⑤ WAN ポート	LAN ケーブル※で、光回線終端機器/ADSL モデム/CATV モデムと接続します。
⑥ LAN1 ～ 4 ポート	LAN ケーブル※でパソコンを接続します。
⑦ 電源スイッチ	電源を ON にするときは、［－］にします。
⑧ アース端子	アース線（別売）を接続します。
⑨ 電源コード	AC100V の家庭用電源コンセントに接続します。

※ LAN ケーブルは、本製品に 1 本のみ付属しています。WAN ポートおよび LAN1 ～ 4 ポートのいずれかに使用できます。不足分はお買い求めください。なお、使用する光回線終端機器/ADSL モデム/CATV モデムによっては、本製品の WAN ポートと接続するためのケーブルが付属している場合があります。

本体左背面

名称	説明
① ISDN 終端抵抗スイッチ (TERM)	本製品のISDN S/Tポートに、ほかのISDN機器を接続するときのみ、このスイッチを［OFF］にしてください。（出荷時の状態では［ON］です。）
② DSUスイッチ	本製品のDSUを使用しないときは、２つとも［OFF］にします。（出荷時の状態では［ON］です。）
③ 初期化スイッチ (INIT)	本製品の設定を購入時の状態に戻すときに押します。詳しくは「ルータ機能の設定を購入したときの状態に戻すには」〈P.156〉で解説します。

本体天面

名称	説明
① PCカードスロット	対応PCカード（別売）を挿入できます。

本体底面

名称	説明
① 電池ボックス	乾電池（単３乾電池６本）をここにセットすると、停電時に本製品のTELポート１のアナログ機器が使用できます。

設置する前に確認してください

インターネットにアクセスするためには、次の準備が必要です。

プロバイダと契約しましたか？

◎ブロードバンドで接続する場合

ADSLインターネット、光ファイバー接続のプロバイダ、CATVインターネット業者のいずれかと契約する必要があります。

※ ADSLインターネットのプロバイダと契約する場合は、DSL事業者との契約も必要なことがあります。詳しくは、プロバイダに確認してください。

※ プロバイダによっては、接続する機器を事前に申請する必要があります。その場合、設定ページを開いて左側の［情報表示］→［WAN状況］をクリックして表示される画面のMACアドレス（「XX:XX:XX:XX:XX:XX」と表示されている番号）を申請します。設定ページを開く方法は「設定ページを開きます」〈P.43〉で解説します。

◎ISDN回線で接続する場合

ISDNの契約、およびISDNプロバイダと契約する必要があります。

（☞ 「ISDNサービスは申し込みましたか？」〈P.62〉）

※ 本製品のルータ機能では、1つのグローバルIPアドレスを複数のパソコンで使用してインターネットに接続します。プロバイダによっては、そのような接続を禁止している場合もあります。プロバイダとの契約内容を確認してください。

工事は完了しましたか？

プロバイダの工事が完了してから、インターネットに接続することができます。

ブロードバンドで接続する場合、必要な機器は用意しましたか？

次の機器が必要です。

光ファイバー接続のプロバイダと契約したとき：光回線終端装置
ADSLインターネットのプロバイダと契約したとき： ADSLモデム
CATVインターネットのプロバイダと契約したとき： CATVモデム

詳しくは、プロバイダにお問い合わせください。

ケーブルは揃っていますか？

本製品には、次のケーブルが付属しています。

・パソコンをLANポートに接続するためのLANケーブル 1本
・ISDN接続する際、本製品とISDN回線を接続するためのISDN（U点）ケーブル 1本

上記以外の接続のためのケーブルが必要な場合は、お客様でお買い求めください。
※RS-232Cシリアルケーブルは、市販のD-sub9ピン メス-メス ストレートケーブルをお買い求めください。

パソコンにLANポートはありますか？

本製品とパソコンを接続する場合、お使いのパソコンに、LANポートが必要です（10BASE-T、100BASE-TXのどちらも使用できます）。
お使いのパソコンにLANポートがない場合は、LANボードまたはLANカードをお買い求めの上、パソコンに取り付けてください。

パソコンにインストールされているWebブラウザを確認してください

◎Webブラウザのバージョンについて

本製品の設定には、Webブラウザを使用します。下記のWebブラウザがお使いのパソコンにインストールされているかどうか、確認してください。

- Microsoft Internet Explorer 5.5 以上
- Netscape 7.0 以上
- Safari 1.0

◎プロキシサーバ、JavaScriptの設定を確認する

- Webブラウザでプロキシサーバを使用する設定になっていると、正しく操作できないことがあります。
  ※Windows版Microsoft Internet Explorer6.0の場合
  （1）［ツール］メニュー→［インターネットオプション］→［接続］タブをクリック
  （2）［LANの設定］ボタンをクリック
  （3）［ローカルエリアネットワークの設定］画面で［LANにプロキシサーバーを使用する］のチェックを外す
- WebブラウザでJavaScriptを使用しない設定になっていると、正しく操作できません。

別の機器につないだことのあるモデムを使う場合

ADSLモデムやCATVモデムによっては、最初につながれたネットワーク機器のMACアドレスを記憶し、それ以外のネットワーク機器とつなぐことを拒否する機種があります。このような場合は、一度ADSLモデムやCATVモデムの電源をOFFにして、10分程度経過してから、もう一度電源をONにしてください

※ ADSLモデムやCATVモデムによっては、数時間から1日程度電源をOFFにすることが必要な機種もあります。
※ プロバイダによっては、CATVモデムやADSLモデムの電源をOFFにすることを禁止している場合もあります。問題がないか確認してから、作業をしてください。

STEP 2 パソコンの準備をしましょう

本製品からパソコンのIPアドレスを取得できるように、パソコン側のネットワーク設定を行います。

ネットワーク設定を行います

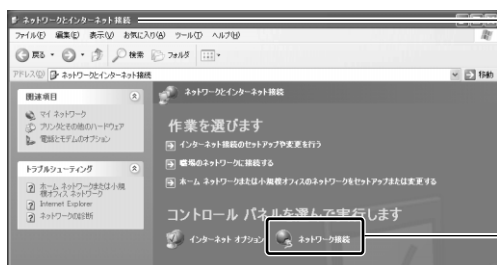
パソコンを本製品に接続した場合、出荷時の設定では、本製品からパソコンにIPアドレスが自動的に割り当てられます。このため、パソコン側では、「IPアドレスを自動的に取得」「DNSサーバのアドレスを自動的に取得」するように設定しておく必要があります。

◎ 本製品に接続するすべてのパソコンで、あらかじめネットワーク設定を行う必要があります。

◎ ネットワーク設定は、お使いのパソコンのOSごとに方法が異なります。ここではWindows XPの設定方法のみ解説します。その他のOSをお使いの方は、「Windows XP以外のOSでネットワークの設定をする」〈P.25〉を参照してください。

Windows XP の ネットワーク設定

- ネットワークの設定を行うには、「コンピュータの管理者」または同等の権限を持つユーザでログオンする必要があります。
- 以下の操作手順および画面表示は、Windows XPの初期状態の場合です。Windows XPの設定によっては異なる場合があります。

1 ［スタート］－［コントロールパネル］を選択します。

2 ［ネットワークとインターネット接続］をクリックします。

3 ［ネットワーク接続］をクリックします。

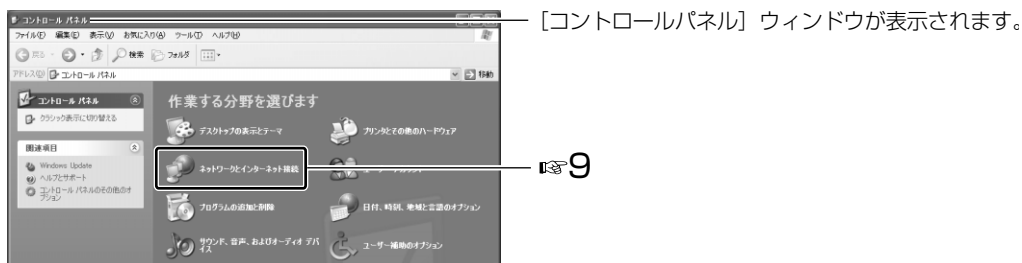
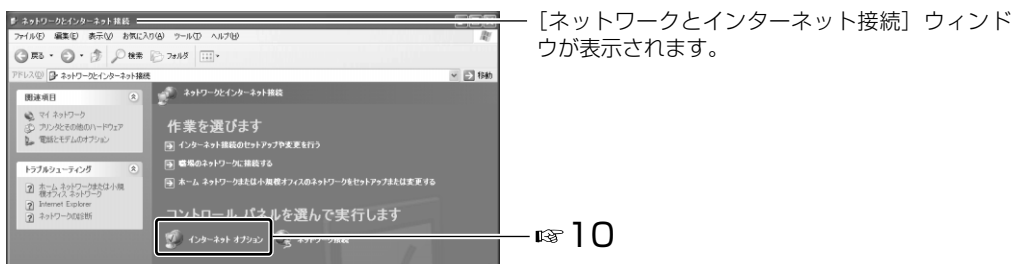
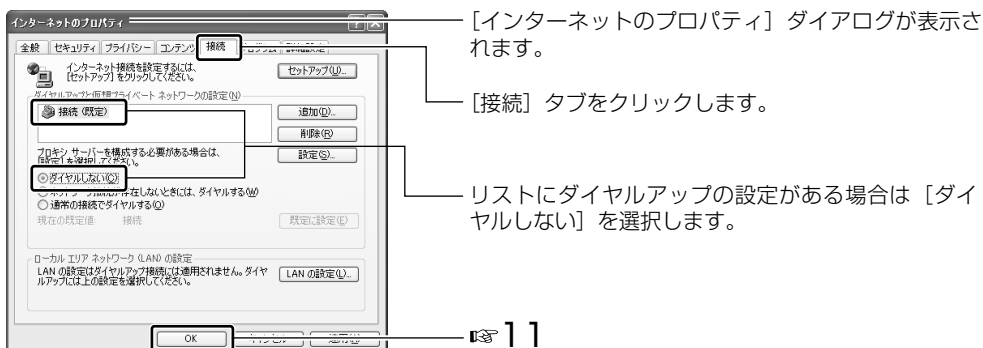
4 ［ローカルエリア接続］を右クリックし、表示されたメニューから［プロパティ］をクリックします。

5 ［インターネットプロパティ（TCP/IP)］を選択し、［プロパティ］ボタンをクリックします。

6 ［OK］ボタンをクリックします。

7 ［OK］ボタンをクリックします。

再起動のメッセージが表示されたら、［はい］ボタンをクリックして、再起動してください。

8 ［スタート］－［コントロールパネル］を選択します。

9 ［ネットワークとインターネット接続］をクリックします。

10 ［インターネットオプション］をクリックします。

11 ［OK］ボタンをクリックします。

以上で設定は終わりです。「本製品を設置しましょう」〈P.27〉へ進んでください。

One Point!

◆Windows XP以外のOSでネットワークの設定をする

• Windows 2000の場合

※ ネットワークの設定を行うには、「Administrator」または同等の権限を持つユーザでログオンする必要があります。

1. [スタート] − [設定] − [コントロールパネル] を選択します。

   [コントロールパネル] ウィンドウが表示されます。

2. [ネットワークとダイヤルアップ接続] アイコンをダブルクリックします。

   [ネットワークとダイヤルアップ接続] ウィンドウが表示されます。

3. [ローカルエリア接続] アイコンをクリックします。

   [ローカルエリア接続のプロパティ] ダイアログが表示されます。

4. [インターネットプロトコル (TCP/IP)] を選択し、[プロパティ] ボタンをクリックします。

   [インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ] ダイアログが表示されます。

5. [IPアドレスを自動的に取得する] と [DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する] を選択します。

6. [OK] ボタンをクリックします。

   [ローカルエリア接続のプロパティ] ダイアログに戻ります。

7. [スタート] − [設定] − [コントロールパネル] を選択します。

8. [インターネットオプション] アイコンをダブルクリックします。

   [インターネットのプロパティ] ダイアログが表示されます。

9. [接続] タブをクリックし、[ダイヤルアップの設定] のリストに設定が表示されている場合は、[ダイヤルしない] を選択します。

10. [OK] ボタンをクリックします。

以上で設定は終了です。「本製品を設置しましょう」〈P.27〉へ進んでください。

• Windows 98 SE/Meの場合

1. [スタート] − [設定] − [コントロールパネル] を選択します。

   [コントロールパネル] ウィンドウが表示されます。

2. [ネットワーク] アイコンをダブルクリックします。

   ※Windows Meで [ネットワーク] アイコンが表示されないときは、コントロールパネル左側の [すべてのコントロールパネルのオプションを表示する] をクリックしてください。

   [ネットワーク] ダイアログが表示されます。

3. リストの [TCP/IP−＞お使いのLANカード (またはLANボード)] を選択し、[プロパティ] ボタンをクリックします。

   [TCP/IPのプロパティ] ダイアログが表示されます。

4. [IPアドレス] タブをクリックし、[IPアドレスを自動的に取得] を選択します。

5. [ゲートウェイ] タブをクリックします。

   [ゲートウェイ] タブの設定画面に切り替わります。

6. [インストールされているゲートウェイ] に何もないことを確認します。

   数字 (IPアドレス) が表示されている場合は、表示されている数字を選択し、右の [削除] ボタンをクリックします。複数表示されている場合は、この操作を繰り返して、すべての内容を削除してください。

7. [DNS設定] タブをクリックし、[DNSを使わない] を選択します。

8. [OK] ボタンをクリックします。

［ネットワーク］ダイアログに戻ります。

9. ［OK］ボタンをクリックします。

再起動のメッセージが表示されたら、［はい］ボタンをクリックして、再起動してください。

10. 再起動後、［スタート］－［設定］－［コントロールパネル］を選択します。

［コントロールパネル］ウィンドウが表示されます。

11. ［インターネットオプション］アイコンをダブルクリックします。

［インターネットのプロパティ］ダイアログが表示されます。

12. ［接続］タブをクリックします。

［ダイヤルアップの設定］リストにダイヤルアップの設定がある場合は、［ダイヤルしない］を選択します。

13. ［OK］ボタンをクリックします。

以上で設定は終了です。「本製品を設置しましょう」〈P.27〉へ進んでください。

• Mac OS X の場合

1. アップルメニューから［システム環境設定］を選択します。

［システム環境設定］ウィンドウが表示されます。

2. ［ネットワーク］アイコンをクリックします。

※［ネットワーク］アイコンがない場合は、［すべてを表示］アイコンをクリックしてください。

3. ［保存］ボタンをクリックします。

以上で設定は終了です。「本製品を設置しましょう」〈P.27〉へ進んでください。

• Mac OS 9 の設定

1. アップルメニューから［コントロールパネル］の［TCP/IP］を選択します。

［TCP/IP］ウィンドウが表示されます。

2. ［経由先］で［Ethernet］を選択し、［設定方法］で［DHCPサーバを参照］を選択します。

また、［DHCPクライアント］［検索ドメイン］を空白にします。

3. クローズボックスをクリックして、ウィンドウを閉じます。確認のウィンドウが表示されたら［保存］ボタンをクリックします。

以上で設定は終了です。「本製品を設置しましょう」〈P.27〉へ進んでください。

STEP 3

本製品を設置しましょう

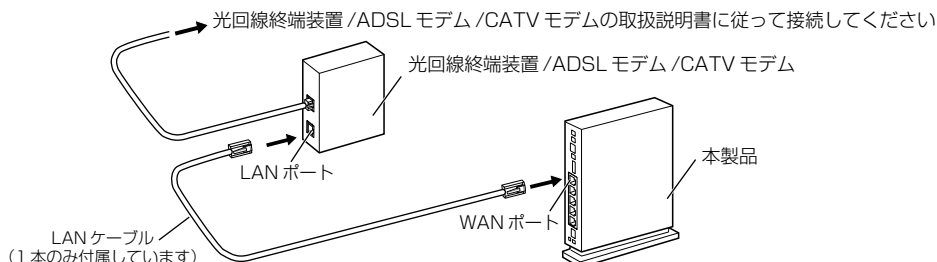
パソコンの準備ができたら、本製品を設置します。

回線と本製品を接続しましょう

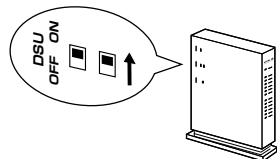
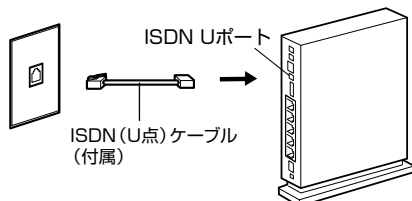
ブロードバンドとISDNで接続方法が異なります。両方を併用する場合は、両方の接続を行ってください。

> ⚠ 注意
>
> すべての機器の電源をOFFにしてから始めてください。本製品の電源もOFFになっていることを確認してください。ケーブルの接続がすべて終わるまでは、電源スイッチをONにしないでください。

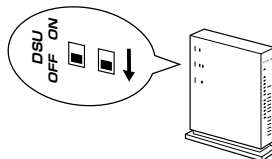
ブロードバンドで使用するとき

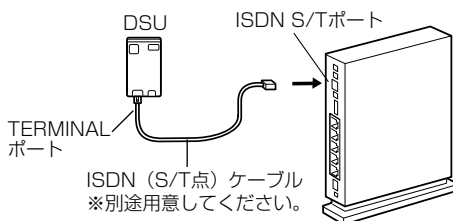
光回線終端装置/ADSLモデム/CATVモデムのLANポートと、本製品のWANポートを、LANケーブルで接続します。

ISDNで使用するとき ISDN

■本製品のDSUを使うとき

❶ 本製品側面のDSUスイッチを２つとも［ON］にする（精密ドライバーなどで動かしてください。出荷時の状態では［ON］です。）

❷ 回線側と本製品のISDN Uポートを、ISDN（U点）ケーブルで接続する

> ⚠ 注意
>
> 本製品のDSUを使う場合は、本製品のS/Tポートにほかの DSU を接続しないでください。故障の原因になります。

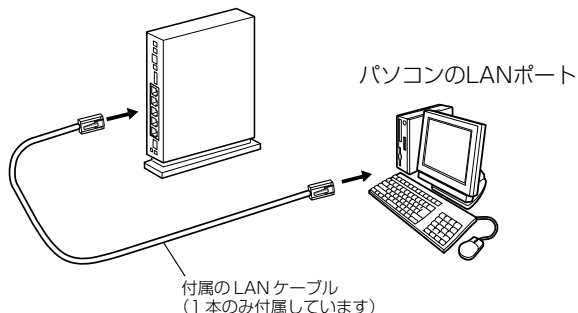
■本製品のDSUを使わないとき

❶ 本製品側面のDSUスイッチを２つとも［OFF］にする（精密ドライバーなどで動かしてください。出荷時の状態では［ON］です。）

> ⚠ 注意
>
> 本製品のDSUを使わない場合は、DSUスイッチを２つとも［OFF］にしてください。［ON］のままだったり、１つだけ［OFF］にしたりすると故障の原因になります。

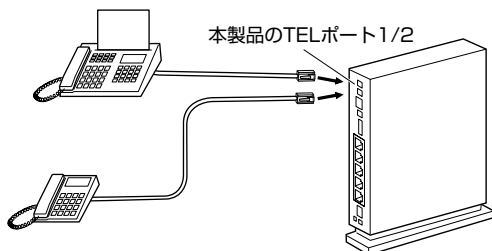
❷ DSUと本製品のISDN S/Tポートを、ISDN（S/T点）ケーブルで接続する

※本製品のDSUを単独で使用することはできません。

本製品にパソコンなどを接続しましょう

パソコンを接続する

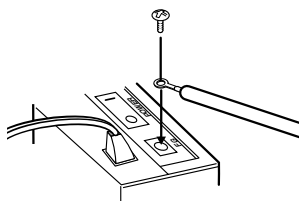
パソコンの電源がOFFになっていることを確認して、 本製品のLANポートと、パソコンのLANポートを、付属のLANケーブルで接続します。

※本製品にハブを接続するときも、本製品のLANポートと、LANケーブルで接続してください。

※対応無線LANカード（別売）を使って、無線でパソコンを接続する場合は、「対応無線LANカードを使う」〈P.71〉を参照して通信できるようにしてください。

電話機やFAXを接続する ISDN

◇制限事項

- アナログ機器は、プッシュボタン（PB）式のものを使用してください。また、アナログ機器に切り替えスイッチがある場合は、「トーン」または「PB（プッシュボタン）」に設定してください。
- アナログ機器は、1つのTELポートに1台だけつないでください。2台以上つないだ場合は、動作保証していません。
- アナログ機器の種類によっては、使用できないことがあります。なお、ビジネスホンは動作保証していません。

アースを接続する

アースのネジを+のドライバではずしてから、アース線を接続し、ふたたびドライバでネジをつけます。

※アース線は別途用意してください。

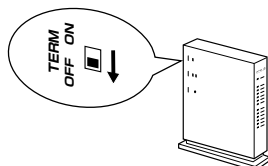
⚠ 注意

必ずアース線を接続してください。アース線を接続しないと、火災や感電の原因になります。またアース線は、ガス管や水道管に接続しないでください。

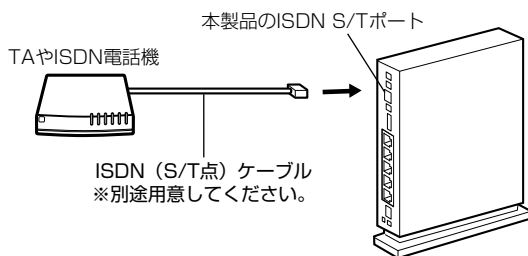
ほかのISDN機器を接続する ISDN

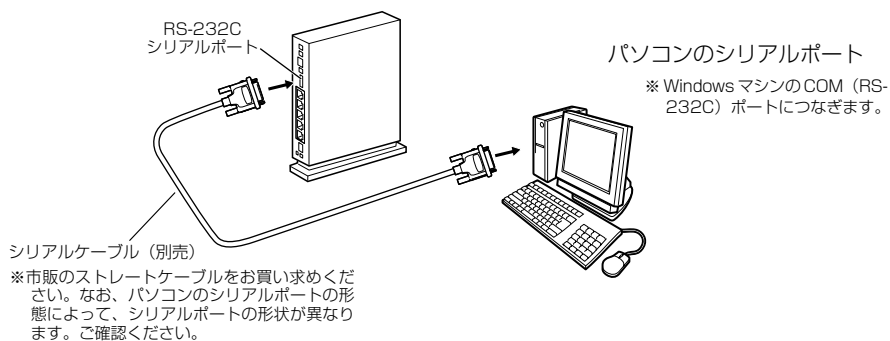
◇制限事項

本製品のDSUを使わないときは、別のDSUをISDNS/Tポートにつないで使うため、ほかのISDN機器を接続することはできません。

1 本製品底面の終端抵抗切替スイッチ（TERM）を［OFF］にします。精密ドライバーなど先の細いもので動かしてください。

※ほかのISDN機器を接続した場合は、どれか1つの機器の終端抵抗を［入］にしてください。

※ ISDN機器をつないだときは、その機器にサブアドレスを付けてください。

2 回線側の機器と本製品のISDN S/Tポートを、ISDN（S/T点）ケーブルで接続します。

RS-232Cシリアルポートにパソコンを接続する ISDN

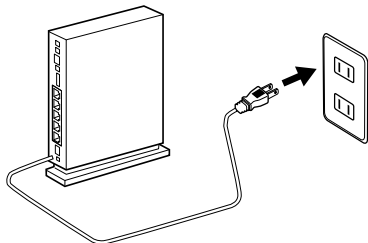
本製品をTAとして使用するときは、本製品のRS-232Cシリアルポートにパソコンを接続します。

電源をONにしましょう

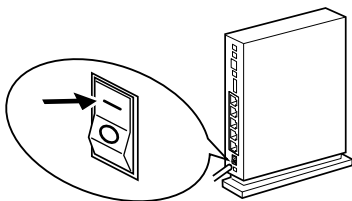
1

電源をONにする前に、次の点を再確認してください。

・本製品のDSUを使わない場合、本製品側面のDSUスイッチを2つとも［OFF］にしましたか？
・ケーブルが正しく接続されていますか？ケーブルを先に接続していないと、特にISDN回線で使用する場合、本製品のISDN極性自動判別機能が正しく動作しないため、通信できない場合があります。

2

電源ケーブルのプラグをコンセントに差し込みます。

3

電源スイッチの「－」側を押します。

4

正しく接続されている場合、本製品のランプは次のようになります。

POWER ：点灯します。
WAN ：ブロードバンドで使用する場合で、光回線終端装置/ADSLモデム/CATVモデムに正しく接続されているときに点灯します。

●ISDNで使用する場合で、電源をONにしたとき、B1とB2ランプが同時に点滅しているときは

※ISDN回線を利用しないときは、必ずこのような動作になります。本製品に異常はありません。（数分で点滅は止まります。）

・本製品のDSUを使う場合、ISDN（U点）ケーブルが抜けていないか確認してください。〈P.28〉
・ほかのDSUを使う場合（本製品のDSUを使わない場合）、ISDN（S/T点）ケーブルが抜けていないか確認してください。〈P.28〉
・DSUスイッチが正しく設定されているか確認してください。〈P.28〉
・各ケーブルの接続が間違っていないか確認してください。
・上記以外の場合は、MNテクニカルセンタ〈P.162〉までご連絡ください。

停電時に使えるようにする

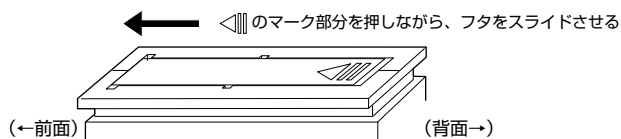
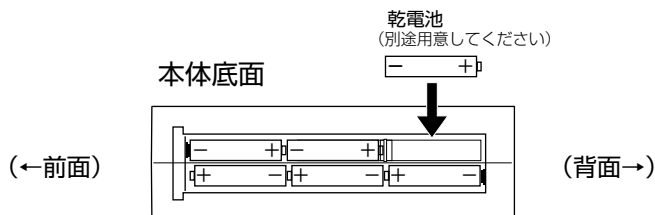
本製品には、停電時でもアナログ機器を使えるように、乾電池によるバックアップ機能があります。
バックアップ機能が働くと、待ち受け時約180分間、通話時約120分間（周囲温度25℃のとき）、TELポート1を使用できます。

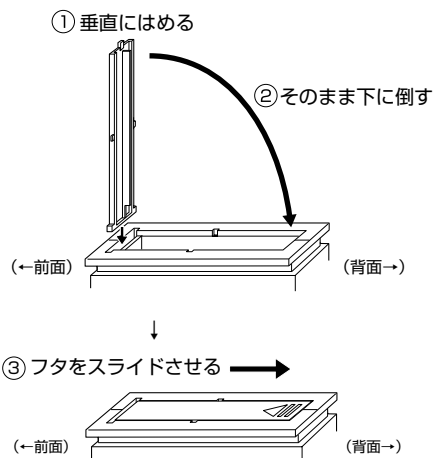
※停電時の動作時間は、乾電池の使用状況、種類、周辺温度、使用環境などによって異なることがあります。

乾電池をセットしましょう

単3アルカリ乾電池を6本用意してください。

1 本製品の電源をOFFにしてから、電源コードのプラグをコンセントから抜きます。

2 本体底面のフタを、マーク部分を押しながらスライドさせて、フタを取り外します。

3 下のイラストのとおり、乾電池を正しく入れてください。

電池と電池との間には仕切りがあります。仕切りを左右に動かしながらセットしてください。

4 フタを閉めます。次の ①～③ の手順で、正しく閉めてください。

5 電源コードのプラグをコンセントに差し込み、再び本製品の電源をONにします。

※バックアップ機能が働くのは、TELポート1だけです。したがって、停電時はパソコンや、ISDN S/Tポートにつないだ端末給電が必要なISDN機器（「ディジタルでんわS-2000」など）は使えません。
※停電時以外は、乾電池を入れなくても本製品は正常に動作します。バックアップ機能を使いたいときだけ、乾電池を入れてください。
※乾電池を入れた後、電源ケーブルをコンセントから抜くときは、必ず先に本製品の電源をOFFにしてください。電源をONにしたまま電源ケーブルを抜くと、乾電池によるバックアップ機能が働いてしまいます。
※停電すると、乾電池によるバックアップ機能が働き、POWERのランプが点滅します。停電復旧しても、POWERのランプは点滅したままです。停電復旧後は、本製品を再起動してください。また、乾電池は消耗していますので、交換することをお勧めします。交換しない場合、次の停電時にはバックアップ機能の働く時間が短くなります。

⚠ 警告

- 乾電池は正しく使用してください。使い方を間違えると、液漏れしたり破裂したりすることがあります。次の点にご注意ください。
  - ・保証期間内の単三アルカリ乾電池をお使いください。
  - ・乾電池をショートさせたり、分解したり、加熱したりしないでください。
  - ・乾電池は充電式ではありません。充電しないでください。
  - ・乾電池の＋－方向を確認してください。方向を間違えてセットした場合、バックアップ機能が働きません。
  - ・乾電池の液漏れによる本体の故障については、当社の保証対象外となります。
  - ・アルカリ性溶液が衣服に付着した場合は、きれいな水で洗い流してください。眼に入ったり、皮膚に付着したときは、ただちにきれいな水で洗ったあと、医師に相談してください。
  - ・新しい乾電池と古い乾電池を混用しないでください。
  - ・停電がなくても、1年に1度の割合で新しい乾電池と交換してください。
  - ・使用済みの乾電池を火中に投げないでください。
- 乾電池はそのほかにもさまざまな原因で液漏れする事があります。ご注意ください。
- 使用直後は乾電池が熱くなることがあります。ご注意ください。

⚠ 注意

・乾電池に直接ハンダ付けしないでください。
・使いきった乾電池は、すぐに器具から取り出してください。
・乾電池は、直射日光・高温・多湿の場所を避けて保管してください。
・落下などによって、乾電池を加圧変形させないでください。
・乾電池を取り外した場合は、小さなお子さまが乾電池をなめたり、誤って飲み込むことがないようにしてください。乾電池は幼児の届かないところに置いてください。

STEP 4

本製品の設定の流れ

接続する形態ごとに、これから必要な設定の流れを解説します。

ブロードバンドでインターネット

ブロードバンドのみ利用してインターネット接続する場合は、これから次の順番で設定を行います。

Step5 **ブロードバンドでインターネットに接続しましょう**

☞〈P.41〉

本製品に用意されている「設定ページ」で、ブロードバンド接続用のプロバイダの設定などを行います。

Step7 **対応無線LANカードを使う**

☞〈P.71〉

別売の対応無線LANカードを購入して無線LANを構築したいときは、このページに進んでください。

ISDNでインターネット ISDN

ISDNのみ利用してインターネット接続する場合は、これから次の順番で設定を行います。

Step6 **ISDNでインターネットに接続しましょう**
☞〈P.61〉

本製品に用意されている「設定ページ」で、ISDN接続用のプロバイダの設定などを行います。

Step7 **対応無線LANカードを使う**
☞〈P.71〉

別売の対応無線LANカードを購入して無線LANを構築したいときは、このページに進んでください。

Step9 **電話機やFAXを使いましょう**
☞〈P.91〉

本製品のTELポートに、電話機やFAXを接続して通話する方法を解説しています。

ブロードバンド + ISDNでインターネット ISDN

たとえば、ブロードバンドでプロバイダに常時接続し、ISDN回線で会社にダイヤルアップ接続する場合は、この順番で設定を行います。

Step5

ブロードバンドでインターネットに接続しましょう ☞〈P.41〉

本製品に用意されている「設定ページ」で、ブロードバンド接続用のプロバイダの設定などを行います。

Step6

活用ガイド

ISDNでインターネットに接続しましょう ☞〈P.61〉

中・上級編「ブロードバンド接続をしながらISDN回線で会社に接続する」（PDFファイル）

ISDNで接続するための設定を行います。相手先登録の＃8以降に登録するとよいでしょう。具体的な設定例が活用ガイドに掲載されていますので参考にしてください。

※活用ガイド（PDF）はMN128-SOHOホームページ〈P.162〉からダウンロードすることができます。

Step7

対応無線LANカードを使うには ☞〈P.71〉

別売の対応無線LANカードを購入して無線LANを構築したいときは、このページに進んでください。

Step9

電話機やFAXを使いましょう ☞〈P.91〉

本製品のTELポートに、電話機やFAXを接続して通話する方法を解説しています。

FOMA/PHS/モデムの対応PCカードでインターネット

FOMA/PHS/モデムの、対応PCカードを利用してインターネット接続する場合は、次の設定を行います。

Step8　FOMA/PHS/モデムの対応PCカードを使う
☞〈P.83〉

本製品のPCカードスロットに、FOMA/PHS/モデムの対応PCカードをセットしてインターネット接続するときは、このページへ進んでください。

STEP 5

ブロードバンドでインターネットに接続しましょう

ブロードバンドを利用してインターネットに接続する場合の設定について解説します。

設定する前に確認してください

ブロードバンドでインターネットに接続する場合は、次の点を確認してください。

プロバイダのタイプを確認してください

◎ 契約したプロバイダのタイプによって、操作手順が異なります。契約したプロバイダが次のどのタイプに該当するか、確認してください。

プロバイダのタイプ	説明	一般的な例
① PPPoEを採用しているプロバイダ	PPPoEクライアントとも呼ばれます。IPアドレスはプロバイダから自動取得します。 プロバイダから複数のIPアドレスを割り当ててもらう場合は、「LAN型（ネットワーク型）」の接続と呼びます。IPアドレスを複数取得しない場合は、端末型の接続と呼びます。	Bフレッツ、フレッツ・ADSLなど
② PPPoEを採用していないプロバイダ	DHCPクライアントとも呼ばれます。IPアドレスはプロバイダから自動取得します。	Yahoo! BB、CATVなど
③ 固定のIPアドレスを割り当てるプロバイダ	固定のIPアドレスをプロバイダから割り当ててもらいます。オプションのサービスとして提供されている場合もあります。	

※一般的な例で記載している内容は、変更になる場合があります。

プロバイダから通知された情報を確認してください

① 次の情報が必要です。お手元にご用意ください。

- ・ログインユーザ名
- ・パスワード
- ・サービス名（プロバイダから通知された場合のみ）
- ・DNSサーバのIPアドレス（プロバイダから通知された場合のみ）

② PPPoEを採用していないプロバイダ（DHCP接続）の場合は、① に加えて以下の情報が通知されている場合があります。

- ・ゲートウェイアドレス

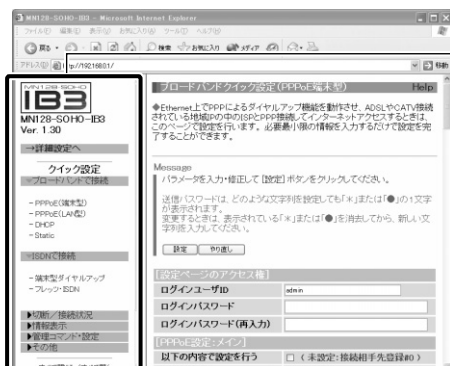
③ IPアドレスを固定で割り当てるプロバイダの場合は、① に加えて以下の情報も必要です。

- ・IPアドレス
- ・サブネットマスク
- ・ゲートウェイアドレス
- ・DNSサーバのIPアドレス

設定ページを開きます

1 Webブラウザを起動します。

2 URLを入力する欄に「http://192.168.0.1/」と入力し、[Enter]キーを押します。

設定ページが表示されます。

画面左側に表示されるこの部分を「メニュー」と呼びます。

以降、この設定ページで本製品の設定を行います。なお、設定ページの設定は、1台のパソコンで行ってしまえば、ほかのパソコンで何度も行う必要はありません。

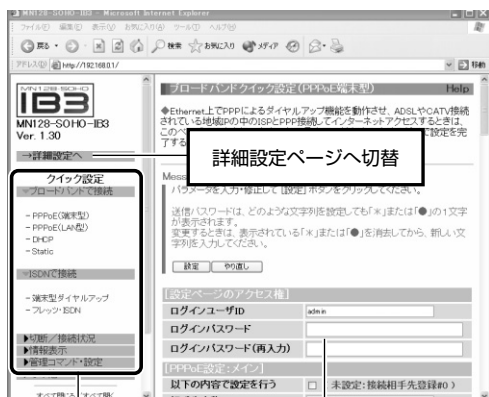
●設定ページが開かないときは

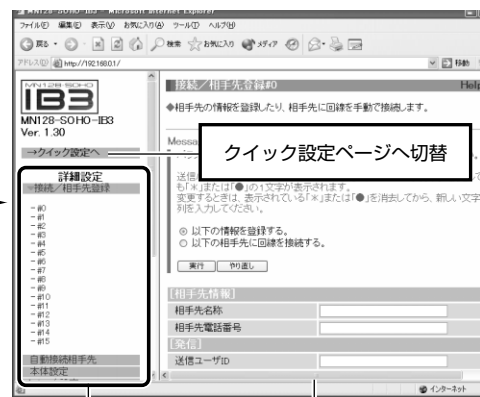
「本製品の設定は変更していないのに設定ページが開かないとき」〈P.142〉

One Point!

◆クイック設定ページと詳細設定ページについて

設定ページは、クイック設定ページと詳細設定ページの2種類から構成されています。このマニュアルでは、おもにクイック設定ページの使い方について解説しています。

クイック設定ページ

クイック設定のメニュー　クイック設定の画面

詳細設定ページ

詳細設定のメニュー　詳細設定の画面

◆クイック設定ページで設定した内容が反映される接続相手先について

クイック設定ページとは、詳細設定ページで設定する内容のうち、必要最小限の項目が抜粋され、素早く設定ができるように設計された画面です。そのため、クイック設定ページで設定した内容は、詳細設定ページに反映されます。次の例で、設定が反映される様子を確認してみましょう。

※クイック設定ページで設定した一例

※クイック設定でインターネット接続の設定を行った場合、詳細設定の接続相手先登録の項目に反映されます。どの接続相手先に対して設定されるかは、この表示でわかります。
ここでは、接続相手先登録 #0、#1、#2 に対して設定を行っています。

上記の設定を行ったあと、詳細設定ページを開くと、次のように設定が反映されています。

接続相手先　#0 に、クイック設定で設定した内容が反映されていることがわかります。

接続相手先　#0、#1、#2 に、クイック設定で設定した内容が反映されています。

クイック設定ページと詳細設定の対応は次のとおりです（設定方法は次ページ以降で詳しく解説します)。

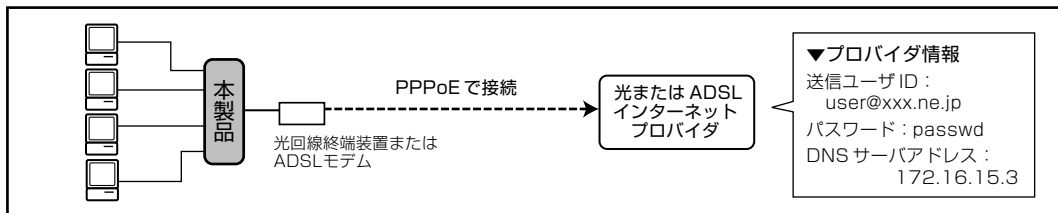
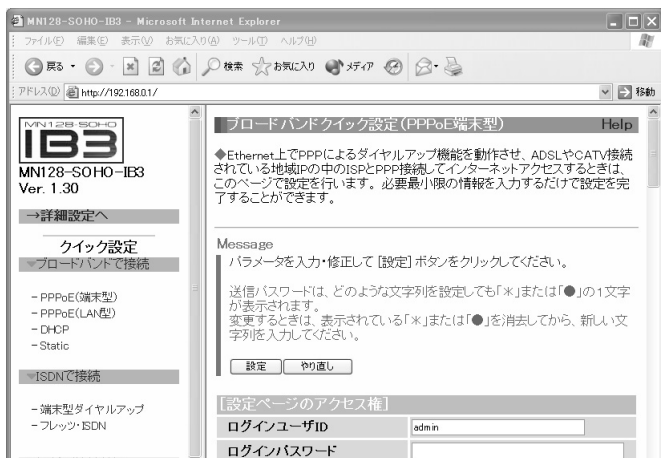
※クイック設定・詳細設定の対応表　<>内は本製品にあらかじめ用意されている設定です

クイック設定ページ			詳細設定ページの接続相手先
ブロードバンド	PPPoE（端末型）	メイン	#0
		メイン（予備）	#1
		サブ# 1 <フレッツ・スクウェア（NTT 東日本）>	#2
		サブ# 2 <フレッツ・スクウェア（NTT 西日本）>	#3
		サブ# 3	#4
		サブ# 4 <速度確認>	#5
		サブ# 5	#6
		サブ# 6	#7
	PPPoE（LAN 型）	メイン	#0
		サブ# 1 <フレッツ・スクウェア（NTT 東日本）>	#2
		サブ# 2 <フレッツ・スクウェア（NTT 西日本）>	#3
		サブ# 3	#4
		サブ# 4 <速度確認>	#5
		サブ# 5	#6
		サブ# 6	#7
ISDN	端末型ダイヤルアップ	接続設定	#0
	フレッツ・ISDN	メイン	#0
		メイン（予備）	#1
		サブ# 1 <フレッツ・スクウェア（NTT 東日本）>	#2
		サブ# 2 <フレッツ・スクウェア（NTT 西日本）>	#3

設定ページで設定する ① Bフレッツ、フレッツ・ADSLなど、PPPoEを採用しているプロバイダの場合

PPPoEを採用しているプロバイダに接続する場合、端末型とLAN型があります。それぞれ設定方法を解説します。該当する方をお読みください。

PPPoEを採用しているプロバイダ（端末型）の場合

ここでは、次のような接続例を挙げて解説します。

1 ［ブロードバンドクイック設定（PPPoE端末型）］画面が表示されていることを確認します。

※別の画面が表示されているときは、メニューから［ブロードバンドで接続］を開き、［PPPoE（端末型）］をクリックします。

2 ［設定ページのアクセス権］を設定します。

インターネットからの不正なアクセスを防ぐために、設定ページの管理者用のログインユーザID、ログインパスワードを設定します。任意の文字をそれぞれ半角32文字まで設定できます。

[設定ページのアクセス権]	
ログインユーザID	admin
ログインパスワード	••••••
ログインパスワード(再入力)	••••••

ユーザ ID/ パスワードのメモ欄
ユーザ ID：
パスワード：

⚠ 注意

以降、設定ページを開くときは、ここで設定したログインユーザ ID、ログインパスワードを入力する必要があります。設定したログインユーザ ID、ログインパスワードを忘れないようにご注意ください。万が一、忘れた場合は、本製品の設定を初期化しなければ設定ページを開くことができなくなります。☞〈P.156〉

3 ［PPPoE設定：メイン］で、プロバイダに接続するための設定を行います。

ここで設定した内容は接続相手先 #0 に反映されることを示しています。また、「未設定」と表示されているので、接続相手先 #0 には何も設定が書き込まれていないことがわかります。

以下の内容で設定を行う	チェックします。(チェックしないと設定されないのでご注意ください)
相手先名称	プロバイダ名など、任意の名称を入力します。
サービス名	プロバイダから指定されたときのみ入力します。(指定されていないときは空白)
送信ユーザ ID	プロバイダから指定されたユーザ ID を入力します。「xxxxxx@xxxx.ne.jp」のようにすべて入力してください。また、半角英数字で入力してください。
送信パスワード	プロバイダから指定されたパスワードを入力します。半角英数字で入力してください。また、大文字・小文字を区別して入力してください。入力したパスワードはすべて「*」または「•」で表示されます。
DNS サーバアドレス	プロバイダから指定された場合、DNS サーバの IP アドレスを入力します。複数指定されている場合は、いずれか 1 つを入力してください。

4 ［PPPoE設定：メイン（予備）］では、回線のトラブルなどでメインに接続できなかった場合の接続先を登録しておけます。PPPoEを採用している別のプロバイダと契約している場合、登録しておくと便利です。

※メインと同じ内容を設定しておくと、何らかの理由で接続できなかったときに、同じプロバイダに再度自動接続されます。

※［PPPoE設定：サブ#1］～［PPPoE設定：サブ#6］については、「PPPoEマルチセッションを利用する」〈P.56〉で解説します。

5 プロバイダの設定が終わったら、［設定］ボタンをクリックします。
手順2でログインユーザIDとログインパスワードを設定した後、初めて［設定］ボタンをクリックしたときは、次のダイアログが表示されます。

［ユーザ名］［パスワード］欄に、手順2で設定したログインユーザID、ログインパスワードを入力し、［OK］ボタンをクリックします。

6 「再起動後に設定が有効になります」という内容のメッセージが表示され、[再起動]画面が表示されます。

[閉じる]ボタンをクリックします。

7 もとのページに戻ったあと、本製品の電源をOFFにして、再度電源をONにします。そのあと、パソコンも再起動してください。

「インターネットに接続しましょう」〈P.55〉に進んでください。

⚠ 注意

●インターネットに接続する操作を行うまでは、接続されません

このあと、Web ブラウザで URL を入力したり、メールソフトでメールの送受信を行ったりするまでは、インターネットには接続されません。

●インターネットへの接続操作を行ったあとは、常時接続になります

一度インターネットに接続すると、切断しない限り接続されたままになります。プロバイダとの契約で、接続時間に応じて料金がかかる場合は、特にご注意ください。この場合、自動切断タイマ、最大時間制限、接続回数制限などの機能を使うとよいでしょう。☞ 活用ガイド〜初級編「接続する」(PDF ファイル)

●ほかの画面で設定するとき

[PPPoE 設定:メイン][PPPoE 設定:メイン(予備)]は、詳細設定ページの接続相手先 #0、#1 に反映され、自動接続先となります。このあと、別のクイック設定ページで設定を行うと、同じ接続相手先にその内容が反映され、先に行った設定が無効になることがあります。☞「クイック設定・詳細設定の対応表」〈P.44〉

設定する際には、その項目で「未設定」と表示されているかどうか(「設定済」と表示されているときは、すでにその接続相手先には設定が行われています)、また、表示されている接続相手先の番号をよく確認してから行ってください。

◆クイック設定の内容は、詳細設定に反映されます

クイック設定	詳細設定
[設定ページのアクセス権]	[管理コマンド・設定]→[ユーザ・パスワード変更]
[PPPoE設定:メイン]	[接続/相手先登録]→[#0]
[PPPoE設定:メイン(予備)]	[接続/相手先登録]→[#1]

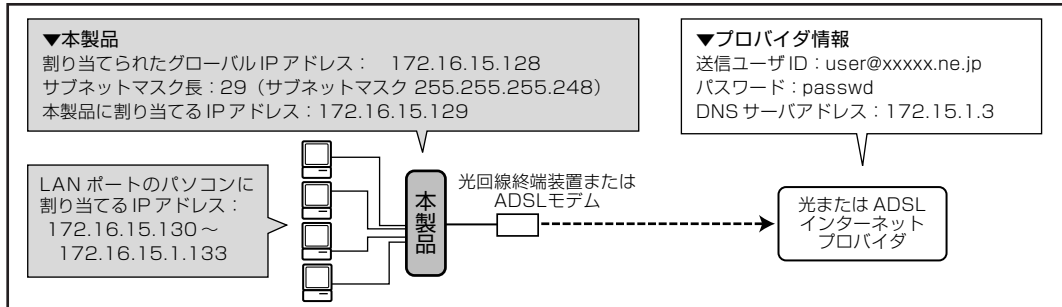
◆PPPoEセッションキープアライブ機能について

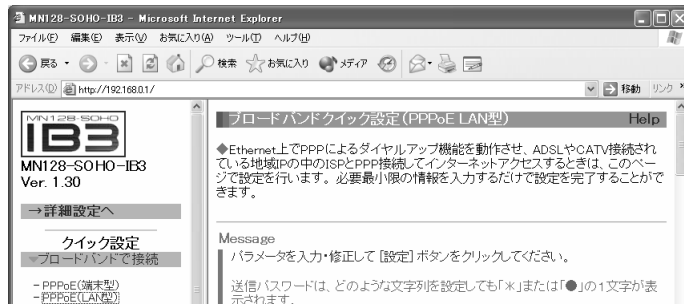
本製品には、PPPoEセッションキープアライブ機能があります。この機能を使うと、プロバイダと接続中に、プロバイダ側から何らかの理由で切断された場合、自動で定期的に再接続を試みます。購入時には、この機能はOFFです。PPPoEセッションキープアライブ機能の設定は、メニューの[詳細設定]→[接続/相手先登録]画面のオプションで行います。設定方法については、活用ガイド〜 初級編「PPPoEセッションキープアライブ」を参照してください。

◆自動的に設定されるフィルタについて

クイック設定を行うと、自動的にフィルタが設定されます。フィルタの内容については、活用ガイド〜初級編「クイック設定で自動的に設定されるフィルタ」を参照してください。

PPPoEを採用しているプロバイダ（LAN型）の場合

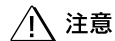
ここでは、次のような接続例を挙げて解説します。

1 メニューから［ブロードバンドで接続］をクリックし、［PPPoE（LAN型)］をクリックします。

［ブロードバンドクイック設定（PPPoE LAN型)］画面が表示されます。

2 ［設定ページのアクセス権］を設定します。

インターネットからの不正なアクセスを防ぐために、設定ページの管理者用のログインユーザID、ログインパスワードを設定します。任意の文字をそれぞれ半角32文字まで設定できます。

［設定ページのアクセス権］	
ログインユーザID	admin
ログインパスワード	••••••
ログインパスワード(再入力)	••••••

ユーザID/パスワードのメモ欄
ユーザID：
パスワード：

注意

以降、設定ページを開くときは、ここで設定したログインユーザID、ログインパスワードを入力する必要があります。設定したログインユーザID、ログインパスワードを忘れないようにご注意ください。万が一、忘れた場合は、本製品の設定を初期化しなければ設定ページを開くことができなくなります。☞〈P.156〉

3 ［LAN側設定］を設定します。プロバイダから割り当てられた連続したIPアドレスのうち、最初のアドレス（ネットワークアドレス）と最後のアドレス（ブロードキャストアドレス）はシステム側で使用されるため、通常は使用しません。P.48の例では、172.16.15.128～172.16.15.135の8個のIPアドレスのうち、172.16.15.128と172.16.15.135を除くアドレスを、本製品やLAN上のパソコン（ここでは4台）に割り当てます。

[LAN側設定]

本体のIPアドレス/サブネットマスク長	172.16.15.129/29
DHCPサーバ機能	○OFF ⊙ON
開始IPアドレス/個数	172.16.15.130/4
ドメイン名	

本体の IP アドレス / サブネットマスク長	本製品に設定する IP アドレスと、そのサブネットマスク長を入力します。
DHCP サーバ機能	本製品の DHCP サーバ機能を使うかどうか設定します。ここでは DHCP サーバ機能を使うので［ON］に設定します。
開始 IP アドレス / 個数	LAN ポートに接続されたパソコンに割り当てる、開始 IP アドレスと、割り当てる個数を / で区切って入力します。
ドメイン名	ドメイン名を使用する場合に入力します。

4 ［PPPoE（LAN型）設定：メイン］で、プロバイダに接続するための設定を行います。

ここで設定した内容は接続相手先 #0 に反映されることを示しています。また、「未設定」と表示されているので、接続相手先 #0 には何も設定が書き込まれていないことがわかります。

以下の内容で設定を行う	チェックします。（チェックしないと設定されないので注意してください。）
相手先名称	プロバイダ名など、任意の名称を入力します。
サービス名	プロバイダから指定されたときのみ入力します。（指定されていないときは空白）
送信ユーザ ID	プロバイダから指定されたユーザ ID を入力します。「xxxxxx@xxxx.ne.jp」のようにすべて入力してください。また、半角英数字で入力してください。
送信パスワード	プロバイダから指定されたパスワードを入力します。半角英数字で入力してください。また、大文字・小文字を区別して入力してください。入力したパスワードはすべて「*」または「•」で表示されます。
DNS サーバアドレス	プロバイダから指定された DNS サーバの IP アドレスを入力します。複数指定されている場合は、いずれか 1 つを入力してください。

5 プロバイダの設定が終わったら、［設定］ボタンをクリックします。
手順2でログインユーザIDとログインパスワードを設定した後、初めて［設定］ボタンをクリックしたときは、次のダイアログが表示されます。

［ユーザ名］［パスワード］欄に、手順2で設定したログインユーザID、ログインパスワードを入力し、［OK］ボタンをクリックします。

6 「再起動後に設定が有効になります」という内容のメッセージが表示され、[再起動]画面が表示されます。

[閉じる]ボタンをクリックします。

7 もとのページに戻ったあと、本製品の電源をOFFにして、再度電源をONにします。そのあと、パソコンも再起動してください。

「インターネットに接続しましょう」〈P.55〉に進んでください。

注意

●インターネットに接続する操作を行うまでは、接続されません

このあと、Web ブラウザで URL を入力したり、メールソフトでメールの送受信を行ったりするまでは、インターネットには接続されません。

●インターネットへの接続操作を行ったあとは、常時接続になります

一度インターネットに接続すると、切断しない限り接続されたままになります。プロバイダとの契約で、接続時間に応じて料金がかかる場合は、特にご注意ください。この場合、自動切断タイマ、最大時間制限、接続回数制限などの機能を使うとよいでしょう。☞ 活用ガイド〜初級編「接続する」(PDF ファイル)

●ほかの画面で設定するとき

[PPPoE(LAN 型)設定:メイン]は、詳細設定ページの接続相手先 #0 に反映され、自動接続先となります。このあと、別のクイック設定ページで設定を行うと、同じ接続相手先にその内容が反映され、先に行った設定が無効になることがあります。 ☞「クイック設定・詳細設定の対応表」〈P.44〉

設定する際には、その項目で「未設定」と表示されているかどうか(「設定済」と表示されているときは、すでにその接続相手先には設定が行われています)、また、表示されている接続相手先の番号をよく確認してから行ってください。

One Point!

◆この画面で設定した内容は、[詳細設定]画面にも反映されます

クイック設定	詳細設定
[設定ページのアクセス権]	[管理コマンド・設定] → [ユーザ・パスワード変更]
[LAN側設定]	[詳細設定] → [ルータ設定] → [LAN]
[PPPoE(LAN型)設定:メイン]	[接続/相手先登録] → [#0]

◆PPPoEセッションキープアライブ機能について

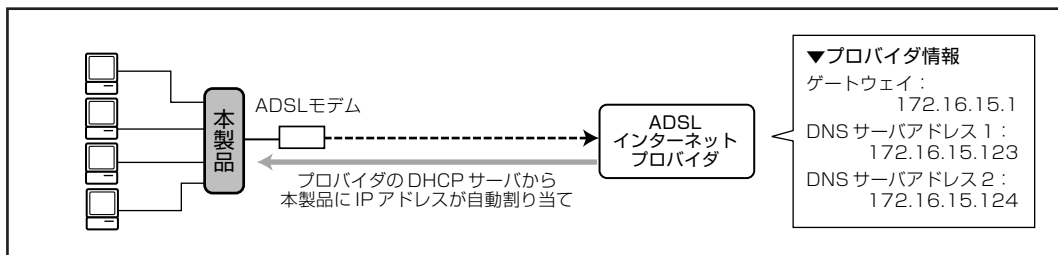
本製品には、PPPoEセッションキープアライブ機能があります。この機能を使うと、プロバイダと接続中に、プロバイダ側から何らかの理由で切断された場合、自動で定期的に再接続を試みます。購入時には、この機能はOFFです。PPPoEセッションキープアライブ機能の設定は、メニューの[詳細設定]→[接続/相手先登録]画面のオプションで行います。設定方法については、活用ガイド 〜初級編「PPPoEセッションキープアライブ」を参照してください。

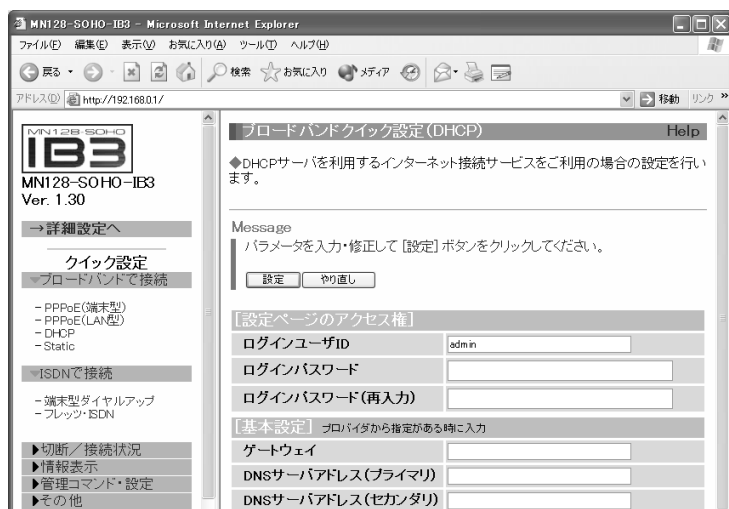
◆自動的に設定されるフィルタについて

クイック設定を行うと、自動的にフィルタが設定されます。フィルタの内容については、活用ガイド〜初級編「自動設定されるフィルタについて」を参照してください。

設定ページで設定する ② Yahoo! BBやCATVインターネットなど、PPPoEを採用していないプロバイダ（DHCP）の場合

ここでは次のような設定例について解説します。

1

メニューから［ブロードバンドで接続］をクリックし、［DHCP］をクリックします。

［ブロードバンドクイック設定（DHCP）］画面が表示されます。

2

［設定ページのアクセス権］を設定します。

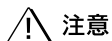
インターネットからの不正なアクセスを防ぐために、設定ページの管理者用のログインユーザID、ログインパスワードを設定します。任意の文字をそれぞれ半角32文字まで設定できます。

［設定ページのアクセス権］	
ログインユーザID	admin
ログインパスワード	••••••
ログインパスワード(再入力)	••••••

ユーザID/パスワードのメモ欄

ユーザID：

パスワード：

⚠ 注意

以降、設定ページを開くときは、ここで設定したログインユーザID、ログインパスワードを入力する必要があります。設定したログインユーザID、ログインパスワードを忘れないようにご注意ください。万が一、忘れた場合は、本製品の設定を初期化しなければ設定ページを開くことができなくなります。☞〈P.156〉

3 ［基本設定］で、プロバイダに接続するための設定を行います。プロバイダから指定がない場合は、空欄にしておきます。

［基本設定］ プロバイダから指定がある時に入力	
ゲートウェイ	172.16.15.1
DNSサーバアドレス(プライマリ)	172.16.15.123
DNSサーバアドレス(セカンダリ)	172.16.15.124

ゲートウェイ	プロバイダから指定された場合、ゲートウェイのIPアドレスを入力します。
DNSサーバアドレス(プライマリ/セカンダリ)	プロバイダから指定された場合、DNSサーバのIPアドレスを入力します。DNSサーバアドレスが1つしか指定されていない場合は、［DNSサーバアドレス（プライマリ)］のみ入力します。

4 プロバイダの設定が終わったら、［設定］ボタンをクリックします。

手順2でログインユーザIDとログインパスワードを設定した後、初めて［設定］ボタンをクリックしたときは、次のダイアログが表示されます。

［ユーザ名］［パスワード］欄に、手順2で設定したログインユーザID、ログインパスワードを入力し、［OK］ボタンをクリックします。

5 「再起動後に設定が有効になります」という内容のメッセージが表示され、［再起動］画面が表示されます。

［閉じる］ボタンをクリックします。

6 もとのページに戻ったあと、本製品の電源をOFFにして、再度電源をONにします。そのあと、パソコンも再起動してください。

「インターネットに接続しましょう」〈P.55〉に進んでください。

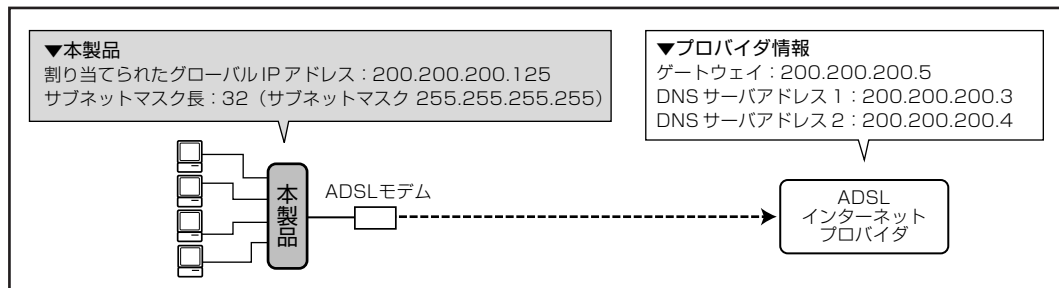
◆この画面で設定した内容は、［詳細設定］画面にも反映されます

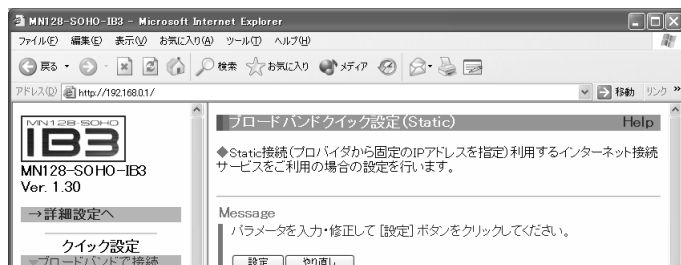
クイック設定	詳細設定
［設定ページのアクセス権］	［管理コマンド・設定］→［ユーザ・パスワード変更］
［基本設定］	［ルータ設定］→［WAN］

◆自動的に設定されるフィルタについて

クイック設定を行うと、自動的にフィルタが設定されます。フィルタの内容については、活用ガイド～初級編「自動設定されるフィルタについて」を参照してください。

設定ページで設定する ③ 固定のIPアドレスを割り当てるプロバイダの場合

ここでは次のような接続例を挙げて解説します。

1 メニューから［ブロードバンドで接続］をクリックし、［Static］をクリックします。

［ブロードバンドクイック設定（Static)］画面が表示されます。

2 ［設定ページのアクセス権］を設定します。

インターネットからの不正なアクセスを防ぐために、設定ページの管理者用のログインユーザID、ログインパスワードを設定します。任意の文字をそれぞれ半角32文字まで設定できます。

［設定ページのアクセス権］	
ログインユーザID	admin
ログインパスワード	••••••
ログインパスワード(再入力)	••••••

ユーザ ID/ パスワードのメモ欄
ユーザ ID：
パスワード：

注意

以降、設定ページを開くときは、ここで設定したログインユーザ ID、ログインパスワードを入力する必要があります。設定したログインユーザ ID、ログインパスワードを忘れないようにご注意ください。万が一、忘れた場合は、本製品の設定を初期化しなければ設定ページを開くことができなくなります。☞〈P.156〉

3 ［基本設定］で、プロバイダに接続するための設定を行います。

［基本設定］	
IPアドレス/サブネットマスク長	200.200.200.125/32
ゲートウェイ	200.200.200.5
DNSサーバアドレス(プライマリ)	200.200.200.3
DNSサーバアドレス(セカンダリ)	200.200.200.4

IP アドレス / サブネットマスク長	プロバイダから割り当てられた固定のグローバル IP アドレス、およびサブネットマスク長を入力します。
ゲートウェイ	ゲートウェイの IP アドレスを入力します。
DNS サーバアドレス（プライマリ / セカンダリ）	プロバイダから指定された場合、DNS サーバの IP アドレスを入力します。DNS サーバアドレスが 1 つしか指定されていない場合は、［DNS サーバアドレス（プライマリ）］のみ入力します。

4 プロバイダの設定が終わったら、［設定］ボタンをクリックします。
手順2でログインユーザIDとログインパスワードを設定した後、初めて［設定］ボタンをクリックしたときは、次のダイアログが表示されます。

［ユーザ名］［パスワード］欄に、手順2で設定したログインユーザID、ログインパスワードを入力し、［OK］ボタンをクリックします。

5 「再起動後に設定が有効になります」という内容のメッセージが表示され、［再起動］画面が表示されます。

［閉じる］ボタンをクリックします。

6 もとのページに戻ったあと、本製品の電源をOFFにして、再度電源をONにします。そのあと、パソコンも再起動してください。

「インターネットに接続しましょう」〈P.55〉に進んでください。

◆この画面で設定した内容は、［詳細設定］画面にも反映されます

クイック設定	詳細設定
［設定ページのアクセス権］	［管理コマンド・設定］→［ユーザ・パスワード変更］
［基本設定］	［ルータ設定］→［WAN］

◆自動的に設定されるフィルタについて

クイック設定を行うと、自動的にフィルタが設定されます。フィルタの内容については、活用ガイド〜初級編「自動設定されるフィルタについて」を参照してください。

インターネットに接続しましょう

1 Webブラウザが起動していない場合は起動します。

2 URLを入力する欄に、「http://www.ntt-me.co.jp/mn128/」と入力します。

3 ［Enter］キーを押します。

MN128ホームページが表示されます。

これでインターネットに接続できるようになりました。ほかのLANポートに別のパソコンを接続して、同じようにWebブラウザからインターネットに接続することを確認してみましょう。

●インターネットに接続できないときは

「プロバイダに接続できない」〈P.151〉をお読みください。

◎ PPPoEマルチセッションを使用する方は「PPPoEマルチセッションを利用する」〈P.56〉へ進んでください。

◎ 無線LANを構築したい方は「対応無線LANカードを使う」〈P.71〉へ進んでください。

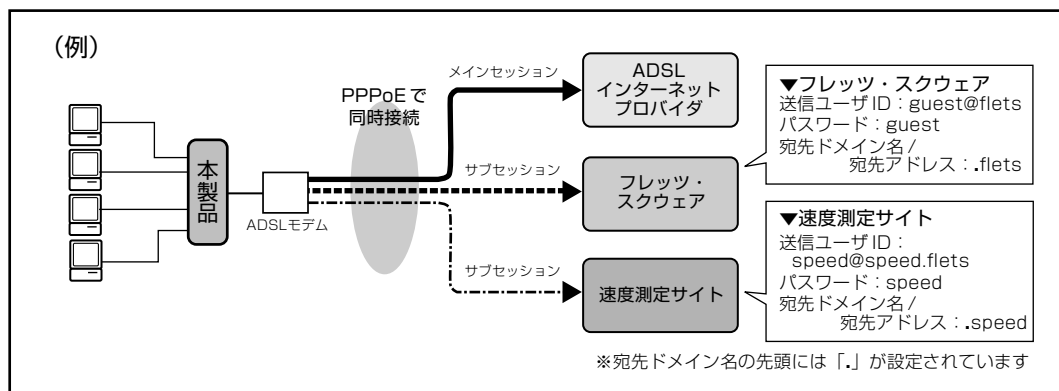
◎ FOMA/PHS/モデムの対応PCカードを使いたい方は「FOMA/PHS/モデムの対応PCカードを使う」〈P.83〉へ進んでください。

◎ 電話機やFAXを使いたい方は「電話機やFAXを使いましょう」〈P.91〉へ進んでください。

PPPoEマルチセッションを利用する

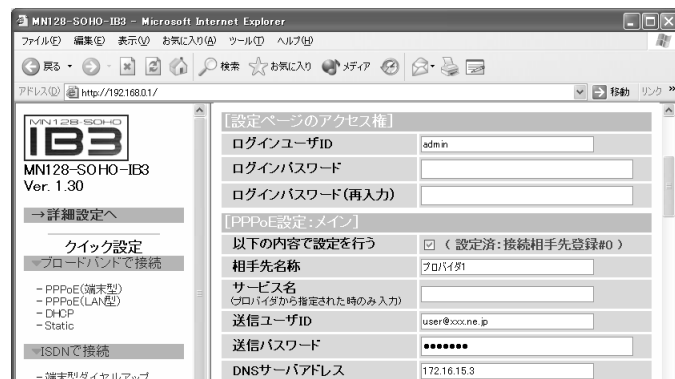
本製品では、PPPoEマルチセッション機能を使用することができます。この機能により、通常のインターネット接続をしたままフレッツ・スクウェアや、速度測定サイト（NTT東日本エリアの東京、神奈川、千葉、埼玉エリアを除く）などへ同時に接続を行うことができます。

本製品のPPPoEマルチセッションの設定を行うと、フレッツ・スクウェアや速度測定サイトなどのURLをWebブラウザで指定するだけで、相手先に自動的に接続することができます。

ここでは、次のような接続例を挙げて解説します。(各設定項目の詳しい設定方法については、「サブセッションの設定項目について」〈P.59〉を参照してください)

フレッツ・スクウェアを利用する

通常接続するメインのプロバイダとしか契約していない場合でも、Bフレッツまたはフレッツ・ADSLユーザであれば、フレッツ・スクウェアに無料で接続できます。フレッツ・スクウェア用の設定を行い、接続してみましょう。

1 PPPoEマルチセッションを利用する場合は、メインセッションの設定を行います。設定ページのメニューから［ブロードバンドで接続］→［PPPoE（端末型）］または［PPPoE(LAN型)］をクリックします。

メインの設定欄に、通常接続するプロバイダを設定します。

2 フレッツ・スクウェアの設定を行います。

本製品の［PPPoE設定：サブ#1/サブ#2］には、フレッツ・スクウェア（NTT東日本/NTT西日本）用の設定が用意されています。どちらか利用するサブセッションの［以下の内容で設定を行う］をチェックしてください。

3 メインセッション、フレッツ・スクウェアのサブセッションの設定が終わったら、［設定］ボタンをクリックします。確認のダイアログが表示されたら、［はい］ボタンをクリックしてください。

※お使いのWebブラウザによっては、確認のダイアログが表示されないことがあります。

4 フレッツ・スクウェアに接続してみましょう。Webブラウザのアドレス入力欄に、「http://www.flets/」と入力します。

［Enter］キーを押してフレッツ・スクウェアのホームページが表示されれば、サブセッションが確立しています（画面は一例です）。

速度測定サイトを利用する

NTT東日本エリアの東京、神奈川、千葉、埼玉エリアを除く地域で、各道府県ごとに設置された速度測定サーバを利用するには、あらかじめ用意されたサブセッション#4を使用します。

1 PPPoEマルチセッションを利用する場合は、メインセッションの設定を行います。設定ページのメニューから［ブロードバンドで接続］→［PPPoE（端末型）］または［PPPoE(LAN型)］をクリックします。

メインの設定欄に、通常接続するプロバイダを設定します。

5

ブロードバンドでインターネットに接続しましょう

2 速度測定サイトの設定を行います。

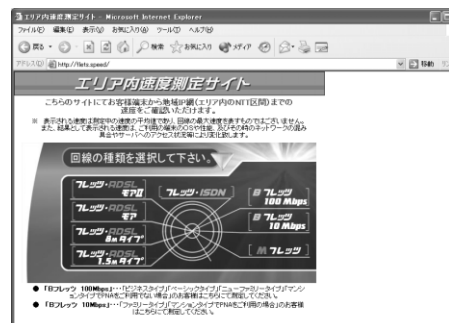
本製品の［PPPoE設定：サブ#4］には、速度計測サイト用の設定が用意されています。以下の内容で設定を行う］をチェックしてください。

3 設定が終わったら、［設定］ボタンをクリックします。確認のダイアログが表示されたら、［はい］ボタンをクリックしてください。

※お使いのWebブラウザによっては、確認のダイアログが表示されないことがあります。

4 速度測定サイトに接続してみましょう。すでにご契約の回線の最大セッション数を接続されている場合は、設定ページのメニューから［切断/接続状況］→［PPPoE］を選択し、どちらかを切断してください。

Webブラウザのアドレス入力欄に、「http://flets.speed/」と入力します。

［Enter］キーを押して速度測定のホームページが表示されれば、サブセッションが確立しています（画面は一例です）。 契約しているフレッツサービスをクリックすると、速度を計測できます。

◆最大4箇所まで同時接続可能です

異なる複数のPPPoEセッションを、最大4箇所まで同時に接続することができます。ただし、ご契約の回線のPPPセッションの上限値が4箇所より少ない場合は、その上限値までの同時接続となります。NTT東日本エリアでは、Bフレッツで2～4セッション、フレッツ・ADSLで2セッションが利用できます。NTT西日本エリアでは、Bフレッツで1～20セッション、フレッツ・ADSLで1～5セッションが利用できます。ただし、NTT西日本エリアの場合、利用するセッション数によって申込みまたはフレッツ・プラスの契約が必要になります。（平成15年9月現在）

詳細、最新情報については以下ホームページを参照してください。

NTT東日本　http://flets.com/
NTT西日本　http://www.ntt-west.co.jp/flets/

◆サブセッションの設定項目について

接続する相手先に応じて、各項目を設定してください。サブの接続固有の設定項目は次のとおりです。

宛先ドメイン名/宛先アドレス	接続相手先のドメイン名、または IP アドレスを指定します。インターネットに接続する際、ここで指定したドメイン名や IP アドレスで発信すると、この相手先へ接続されます。ただし、ドメイン名と IP アドレスを同時に指定することはできません。 • カンマで区切って、4つまで設定できます。 • IP アドレスの場合、ハイフンで区切ってアドレスの範囲を指定することもできます（xxx.xxx.xxx.xxx-yyy.yyy.yyy.yyy）。 • 空欄または＊ですべての宛先が対象となります。 （例）ホスト名の指定と、接続対象となる宛先 .jp ： 最後に .jp がつくサイトすべて .co.jp ； 最後に .co.jp がつくサイトすべて .www.ntt-me.co.jp : 最後に www.ntt-me.co.jp がつくサイトすべて（例：host.www.ntt-me.co.jp、host2.www.ntt-me.co.jp が該当しますが www.ntt-me.co.jp は対象になりません） www.ntt-me.co.jp ： "www.ntt-me.co.jp" のみ（先頭に「.」がついている場合との違いに注意してください。） なお、本製品の AutoDNS 機能を OFF にした場合、宛先ドメイン名を指定しても無効になります。
プロトコル	使用するプロトコルを限定したいときに 1 つだけ設定します。ニーモニック（esp, gre, icmp, ipencap, tcp, udp）またはプロトコル番号で指定します。空欄または＊ですべてのプロトコルが対象となります。
宛先ポート番号	TCP、UDP プロトコルで宛先ポート番号を限定したいときに設定します。ニーモニック、またはポート番号で指定します。空欄または＊ですべてのポートが対象となります。
送信元アドレス	LAN 上のパソコンのうち、その相手先に接続できるパソコンを限定したいときに設定します。接続できるパソコンの IP アドレスを、次のように指定します。 • xxx.xxx.xxx.xxx の形式で設定します。（例；192.168.0.3） • ハイフンで区切ってアドレスの範囲を指定できます。（例；192.168.0.3-192.168.0.5） • 末尾に / で区切ってサブネットマスク長を指定できます。　（例；192.168.1.0/29） • 空欄または * ですべての宛先が対象となります。

◎ フレッツ・グループアクセスの設定方法については、活用ガイド～中・上級編を参照してください。

◎ 無線LANを構築したい方は「対応無線LANカードを使う」〈P.71〉へ進んでください。

◎ FOMA/PHS/モデムの対応PCカードを使いたい方は「FOMA/PHS/モデムの対応PCカードを使う」〈P.83〉へ進んでください。

◎ 電話機やFAXを使いたい方は「電話機やFAXを使いましょう」〈P.91〉へ進んでください。

VoIPアダプタを使用するには

本製品では、VoIPアダプタを利用してIP電話機能を使用することができます。

あらかじめ確認してください

●IP電話サービスを提供しているプロバイダと契約する必要があります。
●VoIPアダプタは、NTT東日本、またはNTT西日本の製品のみ対応しています。
●VoIPアダプタは別途ご用意ください。
●VoIPアダプタの接続、および設定方法は、VoIPアダプタの取扱説明書を参照してください。

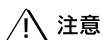
IP電話サービスを契約したプロバイダをメインセッションにします

IP電話サービスを使用するプロバイダは、必ずメインセッションにしておきます。

[PPPoE設定：メイン]	
以下の内容で設定を行う	□（設定済：接続相手先登録#0）
相手先名称	プロバイダ(メイン)
サービス名 (プロバイダから指定された時のみ入力)	
送信ユーザID	user
送信パスワード	●
DNSサーバアドレス	172.16.15.3

UPnP機能がONになっている必要があります（購入時の設定です）

詳細設定ページの［UPnP設定］で、［UPnP機能］を［OFF］に変更した場合は、［ON］にします。

[基本]	
UPnP機能	⊙ON ○OFF

⚠ 注意

［UPnPポート自動削除設定］で時間を設定している場合、VoIPアダプタでの通信が無くなってから指定時間が経過すると、VoIPアダプタにより設定されていたポートが自動的に閉じます。この場合、その後の通話ができなくなりますので、再度VoIPアダプタの電源を入れ直して下さい。

常時接続の設定にしておく必要があります

自動接続制限機能や、自動切断機能を設定した場合、通話中に切断されることがあります。
次の設定項目を変更し、自動接続制限や自動切断機能を使わないように設定してください。

[自動切断]	
最大接続時間	0 分
自動切断タイマ1	0 秒
使用するタイマ	常にタイマ1
自動切断タイマ2	0 秒
タイマ2の時間帯	23:00 時：分から 07:55 時：分まで
終了時刻で強制切断	○しない ⊙する
[自動接続制限]	
料金による制限	0/7 円／日
接続回数による制限	0/60 回／分
最大接続時間経過後の自動接続	⊙不許可 ○許可
時間帯による制限	制限なし